

SREX-FSU2



ユーザーズマニュアル

第5.0版



指紋認証システム導入ガイド

指紋認証システムセットを導入するには、「指紋センサドライバ」と「OmniPass(指紋認証ソフトウェア)」のインストールが必要です。

下表にしたがい、指紋センサドライバのインストールを行ってから、OmniPass のインストールを行ってください。

OS	指紋センサドライバのインストール	OmniPass のインストール
Windows 8.1/8/7/Server2008R2	⇒ 11 頁へ	⇒ 21 頁へ (OmniPass のインストール後は「3-2. OmniPass ユーザ登録」へ進んでください。)
Windows Vista/Server2008	⇒ 13 頁へ	
Windows XP/Server2003	⇒ 17 頁へ	

※ Windows XP は 32 ビット版のみ対応

目次

第1章 はじめに

1-1.製品の特徴	4 頁
1-2.安全にお使い頂くために	7 頁
1-3 製品に関するお問い合わせ	9 頁

第2章 準備

2-1.マニュアルの構成	10 頁
2-2.SREX-FSU2 インストール	11 頁
■Windows 8.1/8/7/Server2008R2 インストール	
■Windows Vista/Server2008 インストール	
■WindowsXP/Server2003 インストール	
2-3.Windows ログオンパスワード作成	19 頁

第3章 登録

3-1.OmniPass インストール	21 頁
■OmniPass のインストール	
■OmniPass のアンインストール	
3-2.OmniPass ユーザ登録	25 頁
■OmniPass ユーザ登録	
■OmniPass 認証ダイアログ	

第4章 使用

4-1.アカウント情報の記憶	30 頁
■Web ログオンパスワードの記憶	
■アプリケーションログオンパスワードの記憶	
■ID の管理	
4-2.暗号化と復号化	39 頁
■暗号化	
■復号化	
■暗号化ファイルの共有	

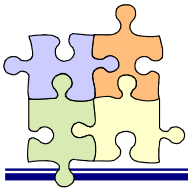
第5章 管理と設定

5-1.ユーザの追加と削除	44 頁
■ユーザの追加	
■ユーザの削除	

5-2.アカウント情報の管理	46 頁
5-3.プロフィールのバックアップと復元	48 頁
■ユーザプロフィールのバックアップ	
■ユーザプロフィールの復元	
5-4. OmniPass コントロールセンタその他の設定	52 頁
■ユーザのデバイス登録の変更	
■認証デバイスの必須設定	
■強力ログオンセキュリティを有効にする (WindowsXP のみ)	
■緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする	
■OmniPass へのログオン設定	
■暗号化/復号化の設定	
■サウンドの設定	
■タスクバーヒントの設定	
■認証ウィンドウの設定	

第6章 付録

6-1.アプリケーション API	62 頁
■OmniPass 認証サンプルプログラム概要	
■API 呼び出し方法	
■API インターフェイス仕様	
6-2.トラブルシューティング	69 頁
■OmniPass ログオン画面が表示されない	
■OmniPass ユーザの追加ができない	
■ブランクパスワードのユーザを OmniPass に追加できない	



本章では SREX-FSU2 指紋センサおよび付属ソフトウェアの製品の特徴と使用上の注意点について説明しています。

SREX-FSU2 について

■使いやすく軽量コンパクト

本製品は Validity 社の LiveFlex テクノロジ(高パフォーマンス・耐久性を持つセンサを開発する基盤技術)を採用し、高い信頼性・耐久性を実現したスワイプタイプの指紋センサです。

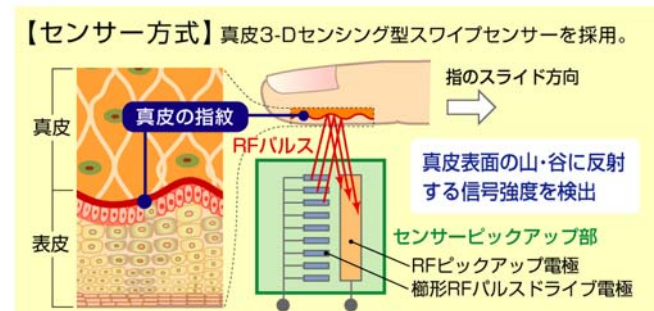
46.0(W)×64.5(L)×13.0(H)mm/約 40g
と小型・軽量で、指をスライドさせるのに最適なサイズとなっています。

また、接続ケーブルは指紋センサ本体から取り外せるセパレート式で、ケーブルの取りまわしが良く、持ち運びもコンパクトに扱えます。



■真皮指紋認証

SREX-FSU2 は高周波 RF センシング機構により、表皮より約 0.5mm 下の真皮指紋を立体的に読み取ることで、「乾燥指」「しめった指」「荒れた指」「傷のある指」など、指表面の状態にほとんど左右されず、高い読み取り精度を実現します。



■耐久性

指が直接センサ面に触れないプラスチックフィルムセンサを採用している為、指の接触・衝撃・静電気に高い耐久性を発揮します。

認証ソフトウェアのデファクトスタンダード OmniPass8.0 採用

SREX-FSU2 指紋センサと OmniPass を統合することにより、コンピュータ、アプリケーション、Web サイト、その他のパスワードで保護されたリソースへのアクセスを制限する強固なセキュリティ認証システムの実現が可能です。OmniPass は下記の機能を提供します。

- 指紋認証による Windows ログオン

指紋認証により Windows にログオンします。ユーザ名とパスワードを入力する必要はありません。スタンバイからの復帰時、パスワード対応スクリーンセーバーロックの解除時も指紋認証によるログオンが可能です。

- ファイルの暗号化と共有

ファイルもしくはフォルダを選ぶだけで指紋認証を使ったファイルの暗号化と復号化を行うことができます。個人情報、機密情報のセキュリティ保護を行うことができます。

暗号化したファイルを他のユーザと共有する機能も提供しています。

- アカウント情報の管理

アカウント情報を要求する Web サイトやアプリケーションのアカウント情報（ユーザ名やパスワード）を無制限に記憶させることができます。一度 OmniPass にアカウント情報を記憶させることにより、以後指紋認証を利用してログオンすることが可能になります。複数のアカウント情報を覚えておくことができ、毎回入力する必要はありません。

- 一台のパソコンを複数のユーザで利用することが可能

複数ユーザの指紋を登録し利用することができます。暗号化ファイルの共有設定も可能です。

- ユーザ作成アプリケーションから認証呼び出し

ユーザが作成したアプリケーションプログラムに OmniPass 指紋認証ダイアログを呼び出すための API を公開しています。簡単に指紋認証を組み込むことができます。

■パッケージの内容

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています。不足の場合は、お手数ですが販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。

- SREX-FSU2 指紋認証装置
- USBケーブル（約 1m）
- セットアップディスク（CD-ROM）
- インストールガイド
- 保証書

■ OmniPass8.0 製品仕様

[OmniPass 8.01.15]

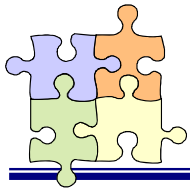
対応 OS	Windows 8.1/8/7/Server2008 R2
対応ブラウザ	Internet Explorer 9.x,10.x,11.x

[OmniPass 8.00.14]

対応 OS	Windows 8/7/Vista/XP/Server2008R2/Server2008/Server2003 (WindowsXP は 32 ビット版のみ対応)
対応ブラウザ	Internet Explorer 8.x,9.x,10.x

■SREX-FSU2 製品仕様

製品名	USB 指紋認証装置 (USB Fingerprint Sensor)
型番	SREX-FSU2
指紋センサ	RF 方式 真皮 3-D センシング型スワイプセンサ(Validity 社 VFS301) センサエリア：約 12mm×3mm 解像度：508dpi 256 レベルグレイスケール 8Bit/pixel
インターフェイス	USB2.0 Full Speed Compliant
電源仕様	USB バスパワーデバイス
消費電流	動作時：60mA(typ.) 非動作時：20mA(typ.) サスペンド時：300uA
ESD 耐圧	±15kV(IEC610004-2 Level4)
保証動作環境	温度：0～70℃ 湿度：20～80%
外形寸法・重量	46.0(W)×64.5(L)×13.0(H)mm 約 40g(USB ケーブル含まず)
USB ケーブル長	約 1m (着脱可能)
対応 OS	Windows 8.1/8/7/Vista/XP Windows Server2008R2/Server2008/Server2003





第1章 はじめに

1-2. 安全にお使い頂くために

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本マニュアルでは、いろいろな表示をしています。これは、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するために目安となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、データを失ったり、機密を要するデータが公開されたり、システムへのアクセスを拒否される等の危険があります。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品の機能が損なわれ、本マニュアルに記載された手順通りの動作ができなくなる可能性があることを示しています。

ご使用上の注意事項

■接続時のご注意

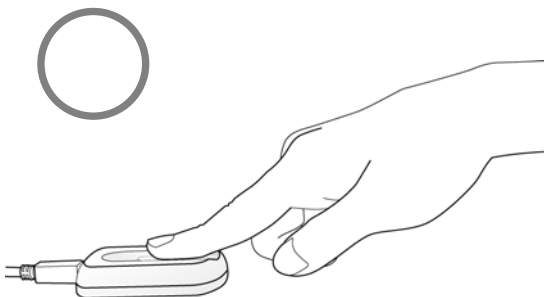
- ①1台のパソコンに同一の指紋センサを複数接続しないでください。
- ②USBハブに接続して使用する場合は、セルフパワー電源タイプ（ACアダプタなどで電源が供給されるタイプ）のハブに接続し、直列接続は2段以内にしてください。
- ③他社製の指紋センサがインストールされている場合は、そのソフトウェアをアンインストールしてから本指紋センサを接続してください。
- ④指紋認証中に本指紋センサの取り外しを行わないでください。

SREX-FSU2 使用時のご注意

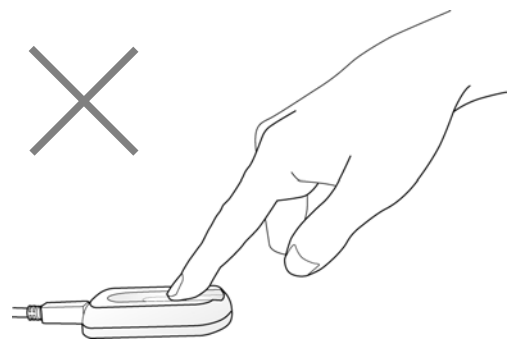
■SREX-FSU2 指のスライド方法について

本指紋センサの認識率や照合率の精度を保つために、下図①を参考に指を置いてください。指の第1関節部あたりからスライドさせます。

下図②は指の置き方の悪い例になります。指を斜めに置いたり、指の一部しかセンサに触れていなかったりすると正確に指紋が読み取れません。



図①.指の第1関節部あたりからスライド



図②.指の一部しかセンサに触れていない

その他のご注意



①指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保証するものではありません。当社では本製品を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。



②本製品はパソコン用周辺機器として設計されております。人命に関わる用途、または高度な信頼性、安全性を要する用途での使用は考慮されておりません。このような用途で使用される設備、機器、システム等への組み込みは避けてください。



③本書の内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。

また、本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一不審な点や誤りなどお気づきになりましたらご連絡願います。



④本製品は日本国内仕様となっており、海外での保守およびサポートは行っておりません。



⑤本製品は電子機器ですので、静電気を与えないでください。



⑥ラジオやテレビ、オーディオ機器の近く、モータなどノイズを発生する機器の近くでは誤動作することがあります。必ず離してご使用ください。



⑦高温多湿の場所、温度差の激しい場所、チリやほこりの多い場所、振動や衝撃の加わる場所、スピーカ等の磁気を帯びたものの近くでの保管は避けてください。



⑧製品の分解や改造等は、絶対に行わないでください。



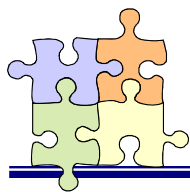
⑨無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重いものを載せることは行わないでください。

【電波障害自主規制について】

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B



第1章 はじめに

1-3. 製品に関するお問い合わせ

本製品に関するご質問がございましたら、下記までお問い合わせください。お問い合わせの際には、巻末の「質問用紙」に必要事項をご記入の上、下記 FAX 番号までお送りください。折り返し弊社より電話または FAX、電子メールにて回答いたします。

ご質問に対する回答は、下記営業時間内となりますのでご了承ください。また、ご質問の内容によりましてはテスト・チェック等の関係上、時間がかかる場合もございますので予めご了承ください。

ラトックシステム株式会社 サポートセンター

〒556-0012 大阪市浪速区敷津東 1-6-14 朝日なんばビル

TEL 06-6633-6741

月～金 10:00～13:00、14:00～17:00

土曜、日曜および祝日を除く

FAX 06-6633-8285

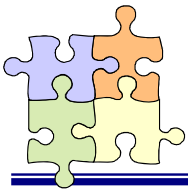
電子メール：<https://web1.ratocsystems.com/mail/support.html>

ホームページで最新の情報をお届けしております。

<http://www.ratocsystems.com>

個人情報取り扱いについて

ご連絡いただいた氏名、住所、電話番号、メールアドレス、その他の個人情報は、お客様への回答など本件に関する業務のみに利用し、他の目的では利用致しません。



第2章 準備

2-1. マニュアルの構成

本マニュアルの第2章「準備」からは、SREX-FSU2 指紋センサとセキュリティ認証ソフトウェア OmniPass を組み合わせて使用して頂く上で最初に行う必要がある準備事項について説明を行っています。

第4章「使用」では、実際に OmniPass を使って頂くための操作方法について説明を行っています。

第5章「管理と設定」では、OmniPass の各種設定項目の解説および運用管理の方法に関する説明を行っています。

本製品をご利用される前に、第2章/第3章で説明されている準備作業を必ず行ってください。

第4章「使用」および第5章「管理と設定」で説明されている項目に関しては、ご使用の目的に合わせて必要となる内容をご参照願います。

本マニュアルは下表のように構成されています。

●第2章 「準備」

2-2.SREX-FSU2 インストール	指紋センサドライバのインストール手順を説明します。
2-3.Windows ログオンパスワード作成	Windows ユーザアカウント登録手順を説明します。

●第3章 「登録」

3-1.OmniPass をインストール	インストール、アンインストール手順を説明します。
3-2.OmniPass ユーザ登録	OmniPass にユーザを登録する方法を説明します。

●第4章 「使用」

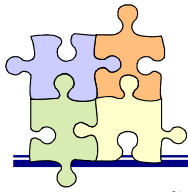
4-1.アカウント情報の記憶	ID とパスワードの自動入力機能の使用方法を説明します。
4-2.暗号化と復号化	ファイルとフォルダの暗号化/復号化機能の使用方法を説明します。

●第5章 「管理と設定」

5-1.ユーザの追加と削除	OmniPass にユーザを追加/削除する方法を説明します。
5-2.アカウント情報の管理	4-1 で記憶したアカウント情報の管理方法を説明します。
5-3.プロファイルのバックアップと復元	エクスポート/インポート機能の使用方法を説明します。
5-4.OmniPass コントロールセンタその他の設定	その他の OmniPass 機能を説明します。

●第6章 「付録」

6-1.アプリケーション API	OmniPass 認証用 API を説明します。
6-2.トラブルシューティング	トラブルシューティングについて説明します。



第2章 準備

2-2. SREX-FSU2 インストール

OmniPass 指紋認証登録を行う前に、必ず SREX-FSU2 のインストールを行ってください。



下記は Windows 8.1/8/7/Server2008 R2 でのインストール手順になります。

Windows Vista/Server2008 でのインストールは、13 頁以降の手順を、

Windows XP/Server2003 でのインストールは、17 頁以降の手順に従ってください。

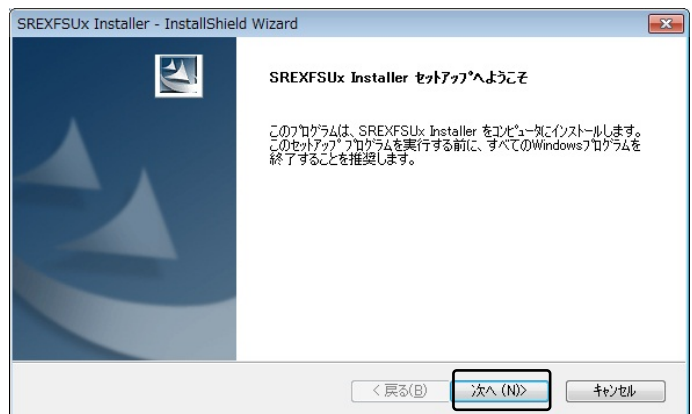
■Windows 8.1/8/7/Server2008 R2 インストール

- 1 指紋センサを PC に接続する前に、製品添付 CD-ROM を CD-ROM ドライブへ挿入し、[CD-ROM¥Win8_7] フォルダ内の FSUxSetup.exe を実行します。

ユーザーアカウント制御のメッセージが表示される場合は、「はい(Y)」をクリックします。



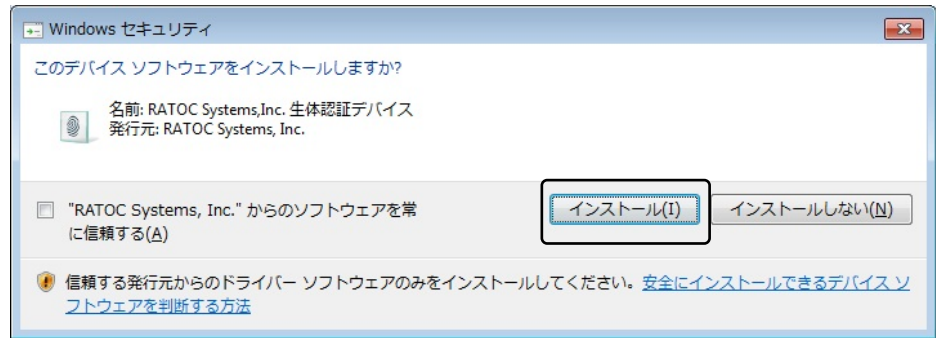
- 2 「SREXFSUx Installer セットアップへようこそ」で「次へ(N)」をクリックします。



- 3 「機能の選択」で「SREX-FSU2」の画像をクリックします。

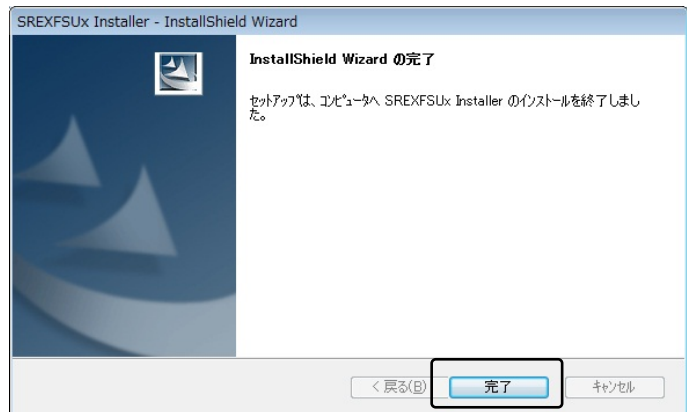


- 4 「このデバイスソフトウェアをインストールしますか？」で「インストール(I)」をクリックします。



- 5 以上でドライバのセットアップは完了です。

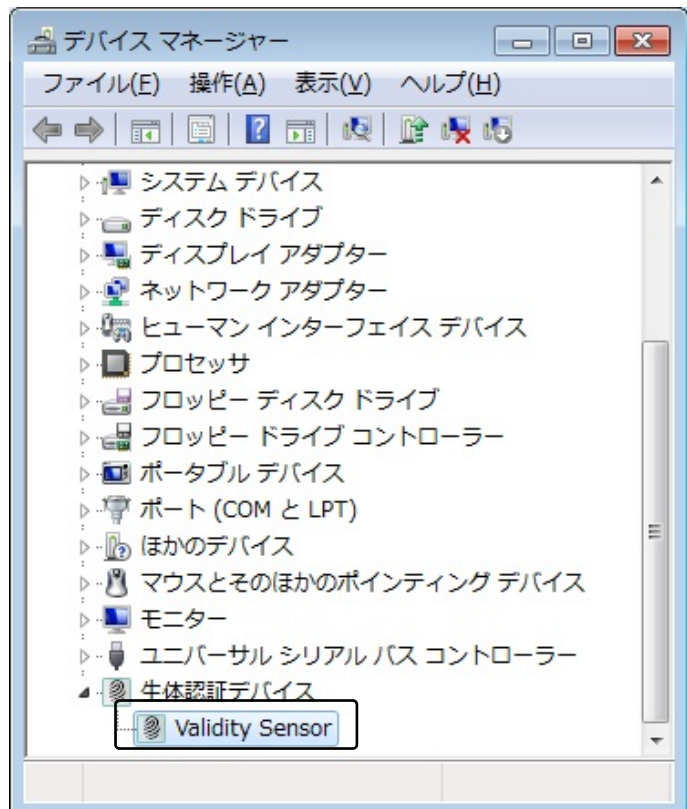
指紋センサを接続すると自動的にドライバがインストールされます。



- 6 インストールが正常に行われているか確認する場合は、「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示方法を「大きいアイコン」または「小さいアイコン」に切り替えます。

「デバイスマネージャー」をクリックします。

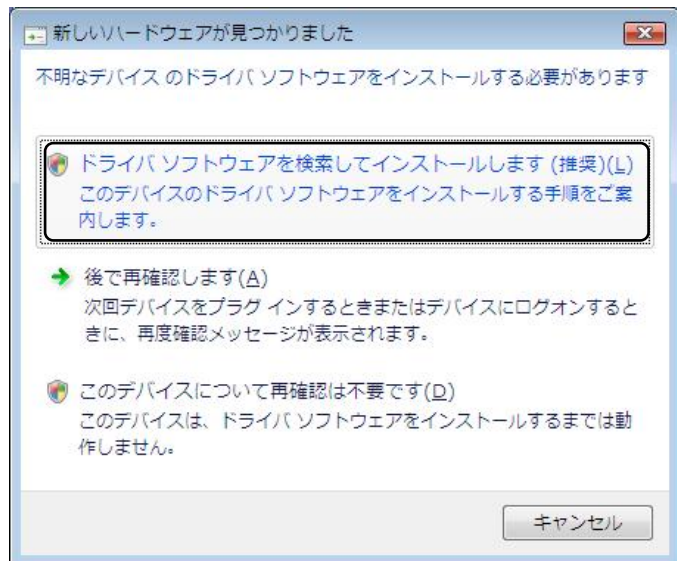
「生体認証デバイス」の下に、「Validity Sensor」が登録されていればインストールは正常に行われています。



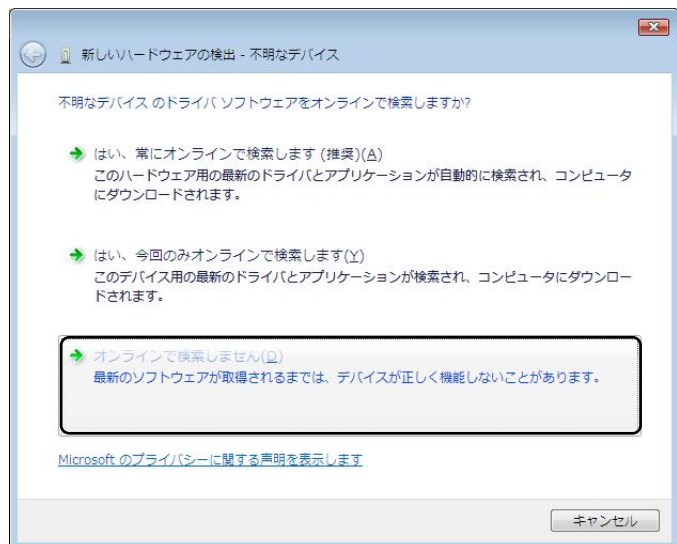
■Windows Vista/Server2008 インストール

1 SREX-FSU2 をパソコンのUSBポートに接続すると、「新しいハードウェアが見つかりました」のダイアログが表示されます。

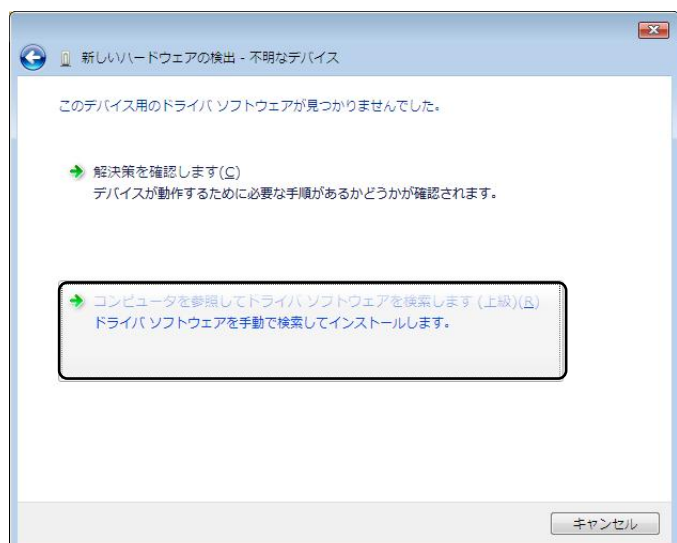
「ドライバソフトウェアを検索してインストールします(推奨)(L)」をクリックします。



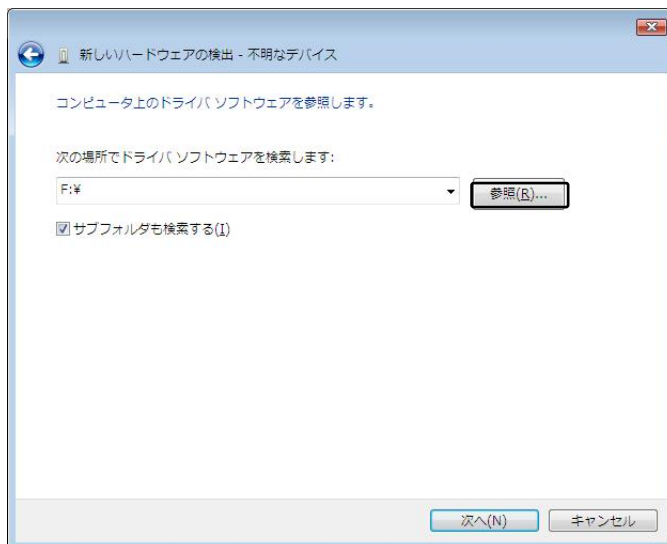
2 デバイスのドライバソフトウェアをオンラインで検索しますか？の画面では、「オンラインで検索しません(D)」をクリックします。



3 このデバイス用のドライバソフトウェアが見つかりませんでした。の画面では、「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します(上級)(R)」をクリックします。



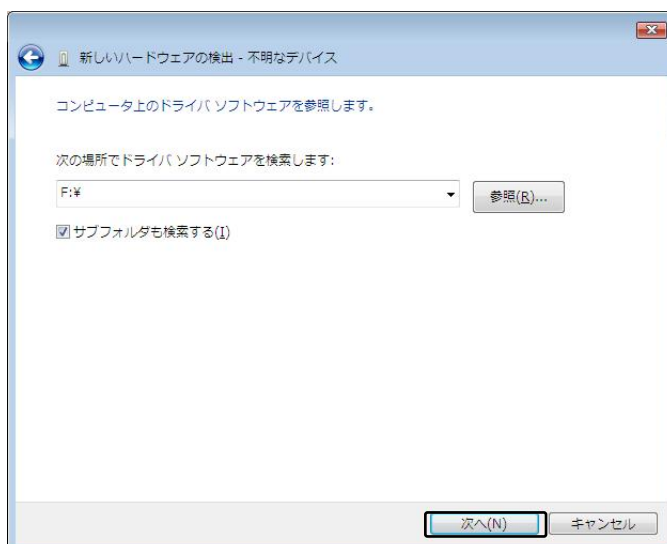
- 4 製品添付のドライバ CD-ROM を CD ドライブにセットし、「参照(R)...」をクリックしてください。



- 5 フォルダの参照画面が表示されますので、CD-ROM ドライブを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



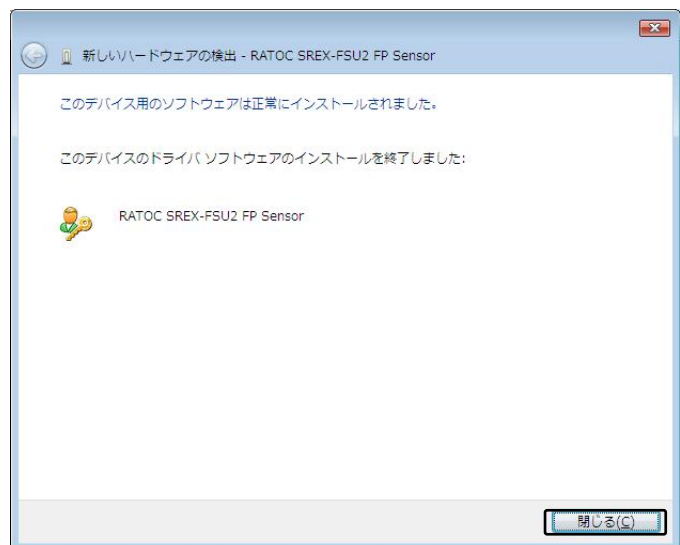
- 6 手順4の画面が表示されますので、「次へ(N)」をクリックします。



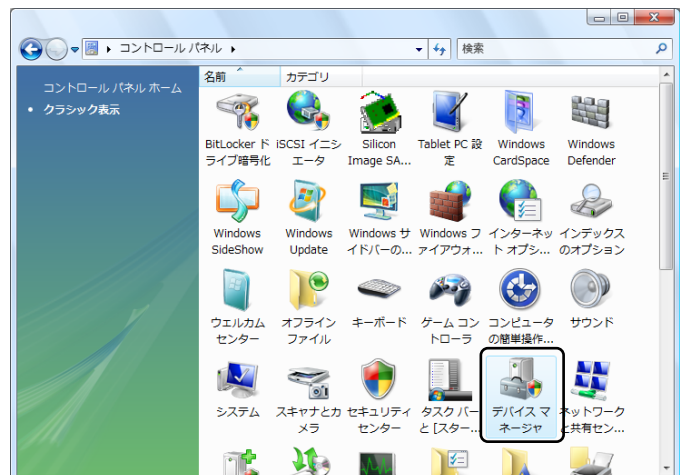
- 7 ドライバソフトウェアが見つかると、「このデバイスソフトウェアをインストールしますか?」というダイアログが表示されます。
「インストール(I)」をクリックします。



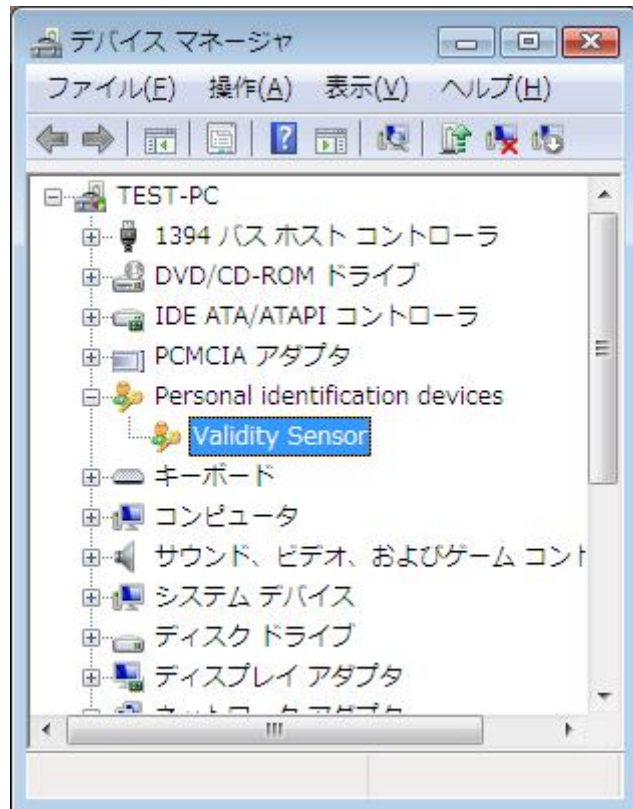
- 8 「このデバイス用のソフトウェアは正常にインストールされました。」のメッセージを確認し、「閉じる(C)」ボタンをクリックします。



- 9 インストールが正常に行われているか確認する場合は、下記の手順で行います。
「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示をクラシックに切り替えます。
「デバイスマネージャ」をクリックします。



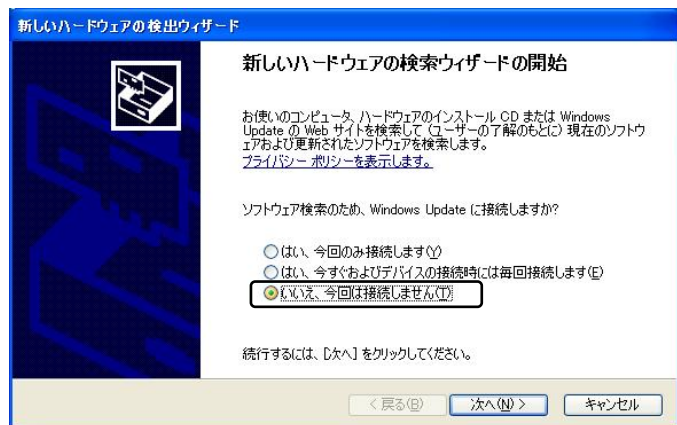
- 10 [Personal identification devices]
の下に、
[Validity Sensor]が登録されてい
ればインストールは正常に行われていま
す。



■WindowsXP/Server2003 インストール

1 SREX-FSU2 をパソコンのUSB ポートに接続すると、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が起動します。

Windows XP の SP2 以降では、最初に「Windows Update サイト検索」が表示されますが、「いいえ、今回は接続しません(T)」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。



2 製品添付のドライバ CD-ROM を CD ドライブにセットしてください。

「ソフトウェアを自動的にインストールする(I)」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。



3 最後に「完了」ボタンをクリックします。



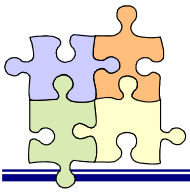
4

インストールが正常に行われているか確認する場合は、下記の手順で行います。

「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示をクラシックに切り替えます。「システム」をクリックし、「ハードウェア」のタブを選択し、「デバイスマネージャ」をクリックします。

[Personal identification devices]の下に、
[Validity Sensor]が登録されていればインストールは正常に行われています。





第2章 準備

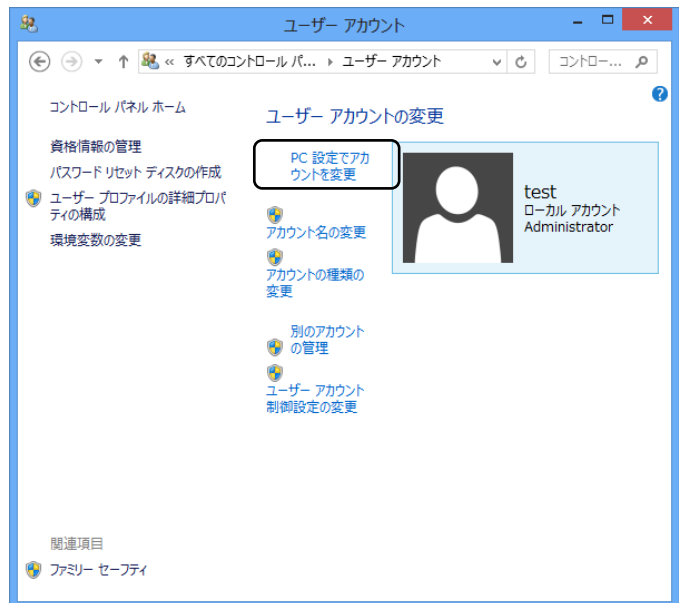
2-3. Windows ログオンパスワード作成

OmniPass ユーザ登録では Windows ログオン時のユーザ名とパスワードが必要になります。OmniPass ユーザ登録を行う前に、必ず Windows のログオンパスワードを作成してください。(下記は Windows8 での説明画面となります)

- 1 「コントロールパネル」の表示を「大きいアイコン」または「小さいアイコン」に切り替え「ユーザーアカウント」をクリックします。



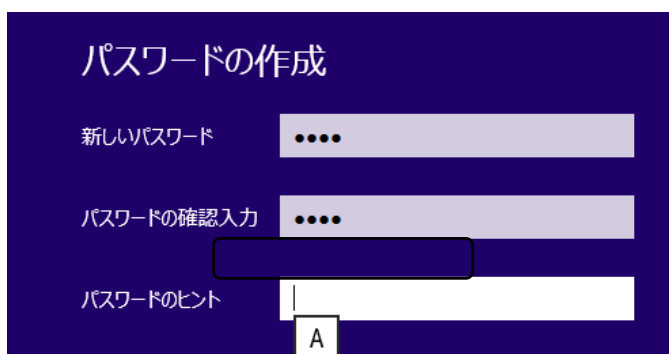
- 2 「PC 設定でアカウントを変更」をクリックします。



- 3 「パスワードの作成」をクリックします。

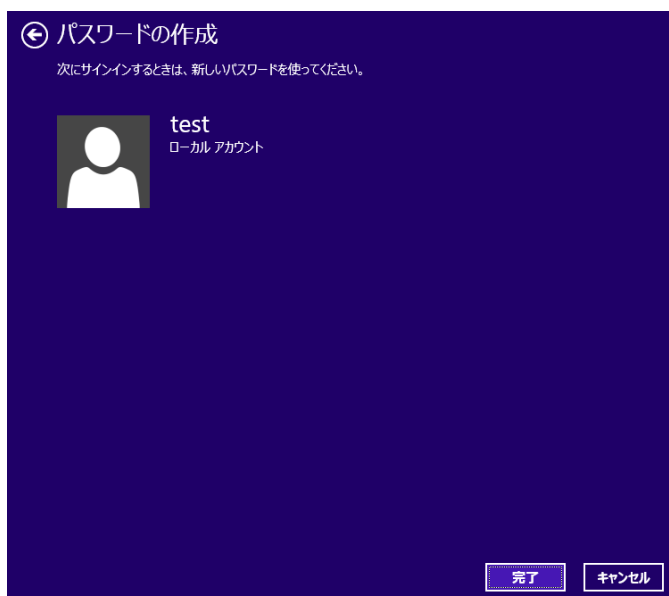


4 パスワードを設定します。

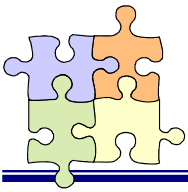


The screenshot shows a dark blue interface titled "パスワードの作成" (Password Creation). It features three input fields: "新しいパスワード" (New Password) with four dots, "パスワードの確認入力" (Confirm Password) with four dots, and "パスワードのヒント" (Password Hint) with a vertical bar. A small white box with the letter "A" is positioned below the hint field.

5 設定が完了しましたら「完了」をクリックします。



The screenshot shows a dark blue interface titled "パスワードの作成" (Password Creation) with a back arrow icon. Below the title is the instruction "次にサインインするときは、新しいパスワードを使ってください。" (When signing in next time, please use the new password). A user profile is displayed with a placeholder icon, the name "test", and the text "ローカル アカウント" (Local Account). At the bottom right, there are two buttons: "完了" (Done) and "キャンセル" (Cancel).



3-1. OmniPass インストール

OmniPass のインストール・アンインストールについて説明します。

■OmniPass のインストール

1

製品付属CD-ROMのOmniPassフォルダー内にある下記フォルダーに収録されているセットアッププログラム「SETUP.EXE」を起動します。

[Win8_7¥OP_x32]

⇒ 8.1/8/7 用 (32 ビット版)

[Win8_7¥OP_x64]

⇒ 8.1/8/7/Server2008R2 用
(64 ビット版)

[WinVista_XP¥OP_x32]

⇒ Vista/XP/Server2008/
Server2003 (32 ビット版)

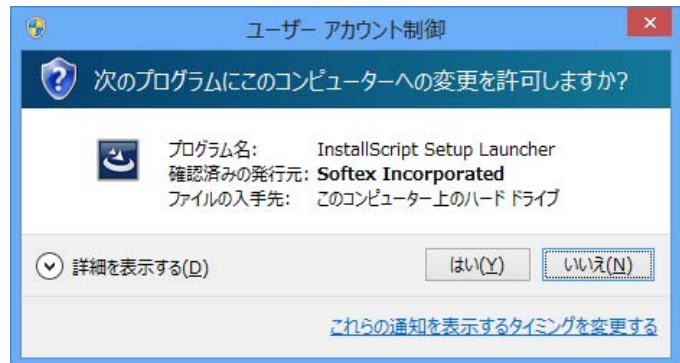
[WinVista_XP¥OP_x64]

⇒ Vista/Server2008/
Server2003 (64 ビット版)

右のユーザーアカウント制御の確認を行い、「続行(C)」ボタンをクリックします。



OmniPass をインストールするユーザーはシステムに対して管理者権限を持っている必要があります。

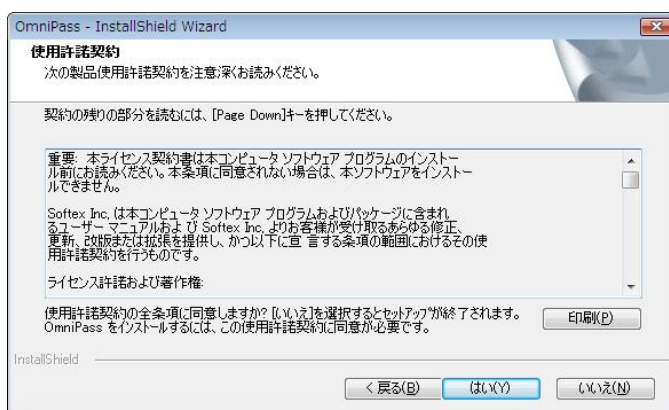


※ Windows 8.1/8/7/Vista/2008 でユーザーアカウント制御(UAC)が有効になっている場合は、この画面が出力されます。

2 「OmniPass セットアップへようこそ」の画面で「次へ(N)」をクリックします。



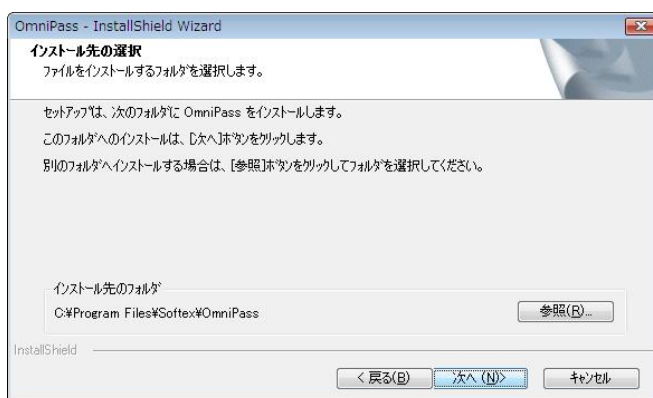
3 使用許諾書の内容をご確認頂き、同意をいただいた上で「はい(Y)」をクリックします。



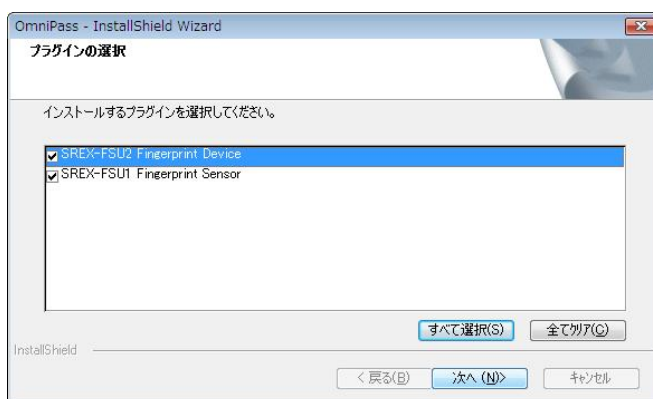
4 インストール先の選択を行います。「次へ(N)」をクリックします。



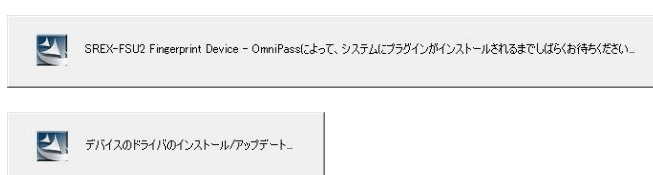
ルートディレクトリ（例えば、C:¥）にインストールしないでください。OmniPass をインストールしたディレクトリの下層でファイルやフォルダの暗号化はできません。



5 プラグインの選択を行います。「SREX-FSU2 Fingerprint Device」にチェックを入れ、「次へ(N)」をクリックします。



6 OmniPass のインストール実行画面が表示されます。インストールは自動終了します。ここでは、何も操作する必要はありません。



- 7 「コンピュータの再起動」を選択し、「完了」をクリックします。



- 8 再起動後、タスクバーに鍵マークの OmniPass コントロールセンタのアイコンが表示されます。



■OmniPass のアンインストール



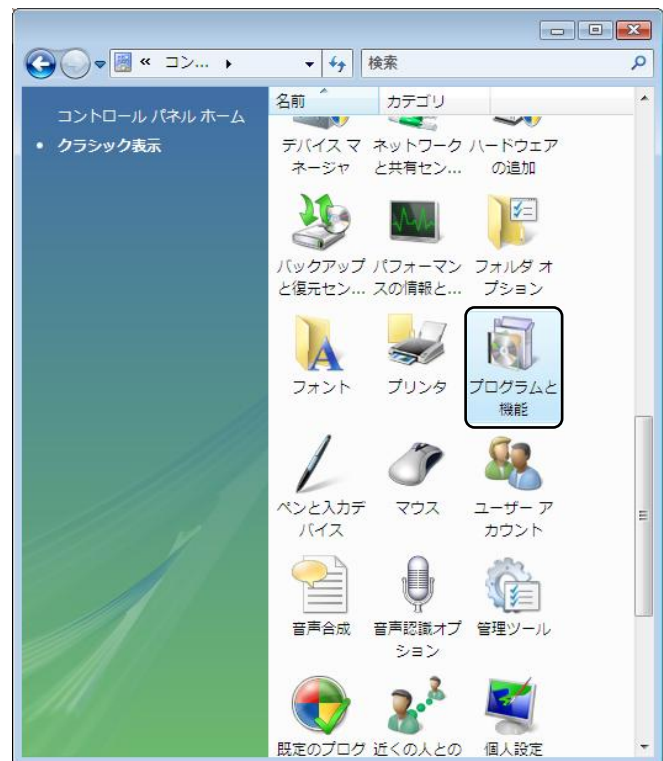
OmniPass のアンインストールを行うと、OmniPass で暗号化されたファイルは復号化することができなくなります。また、保存されたパスワードと情報は全て失われます。アンインストールを行う前に、以下の操作を行うことを推奨します。

- (1) 全ての OmniPass 暗号化ファイルを復号化する。
- (2) OmniPass ユーザプロフィールをバックアップする。

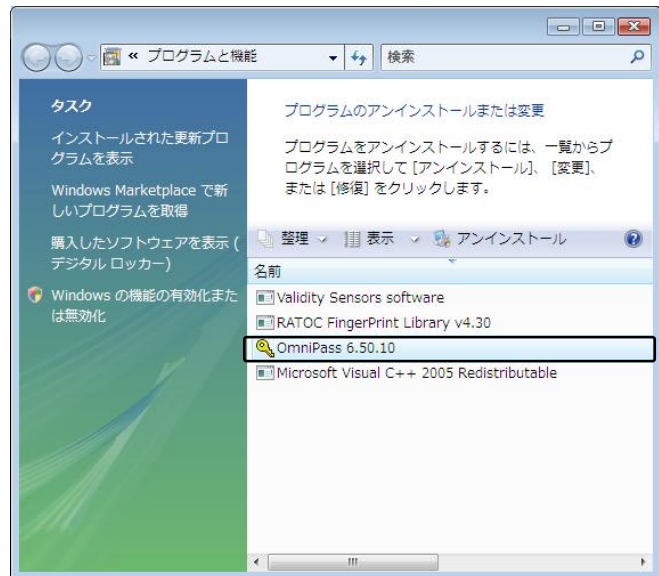
- 1 「コントロールパネル」を開き「プログラムと機能」をクリックします。



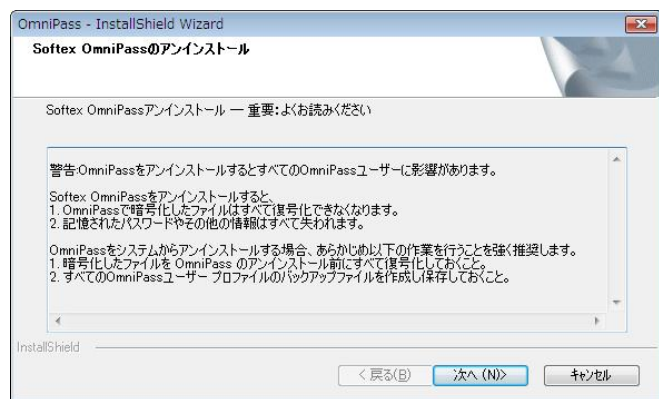
WindowsXP では「プログラムの追加と削除」を選択してください。



- 2 インストールされたプログラムの一覧より「OmniPass」を選択し、「アンインストール」をクリックします。



- 3 アンインストール時の警告内容をご確認頂き、アンインストールする場合は「次へ(N)」をクリックします。



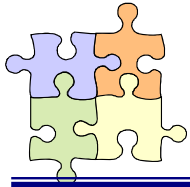
- 4 アンインストールの最後の確認です。実行する場合は「はい(Y)」をクリックします。



- 5 アンインストール完了です。「再起動」を選択して、「完了」をクリックします。



以上の操作でアンインストール作業は完了です。



3-2. OmniPass ユーザ登録

OmniPass ユーザ登録では Windows ログオン時のユーザ名とパスワードが必要になります。登録を行う前に、必ず Windows のログオンパスワードを作成してください。

■OmniPass ユーザ登録

- 1 OmniPass 登録ウィザードから、「開始」ボタンをクリックします。

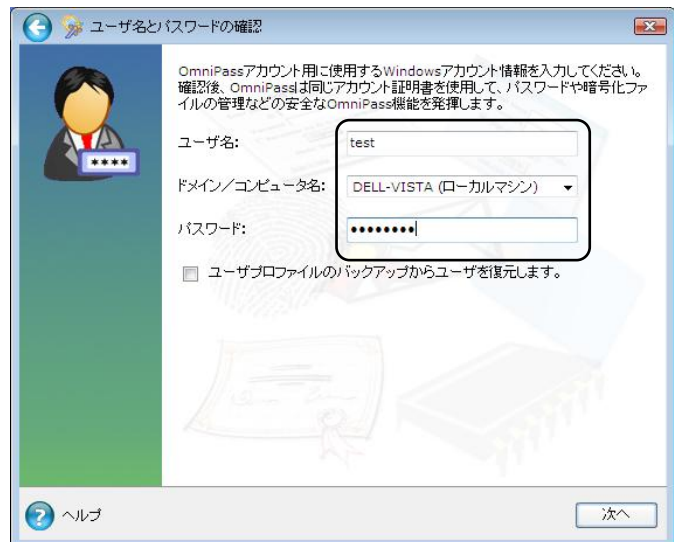


- 2 ユーザ名、ドメイン、パスワードを入力して、「次へ」をクリックします。



Windows にログオンするときと同じユーザ名とパスワードを入力します。ドメインは通常「コンピュータ名」になります。

企業環境、または企業リソースにアクセスする場合は、ドメイン名は、Windows のコンピュータ名ではありません。システム管理者にお問い合わせください。



3 使用する指紋センサを選択し、「次へ」をクリックします。

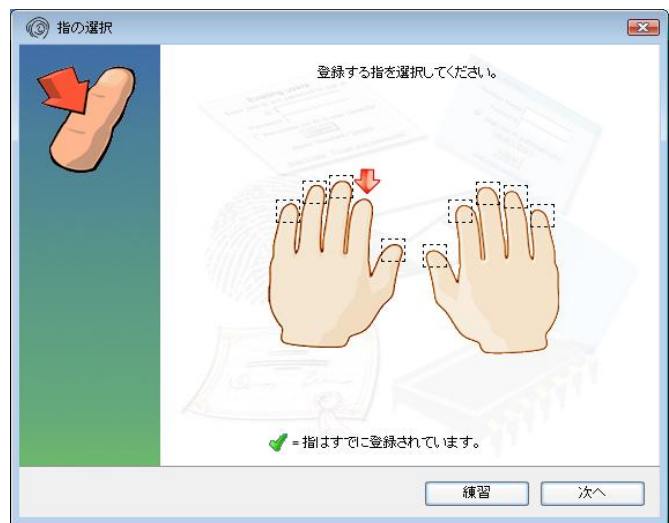
※ センサのプラグインを複数選択した場合のみこの画面が表示されます。



4 認証で使用する指をイラスト上で選択し、「次へ」をクリックします。



指の選択画面には「練習」ボタンがあります。クリックすると、指紋のキャプチャを練習できます。



5 指紋の読み取りを開始します。画面の表示に従って指紋の読み取りを行います。指紋の読み取りは3回行う必要があります。

読み取りが正常に行われた場合は、指紋画像が緑色で表示され、失敗した場合は、指紋画像が赤色で表示されます。

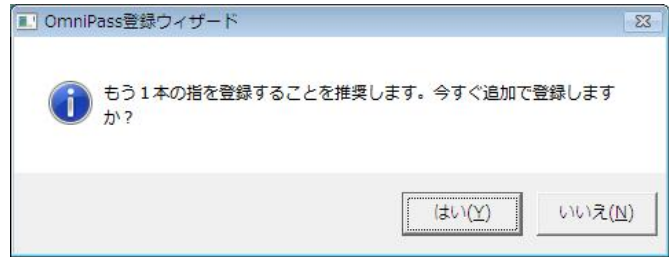
読み取った指紋との確認を行いますので、もう一度、同じ指の指紋の読み取りを行います。「認証に成功しました。」と表示されたら、「次へ」をクリックします。「認証に失敗しました。」と表示されたら、画面左上の「←(戻る)」をクリックし、再登録を行います。



6

「もう 1 本の指を登録することを推奨します。今すぐ追加で登録しますか?」というメッセージが表示されますので、他の指も登録する場合は「はい(Y)」をクリックします。

手順4の操作に戻り、異なる指で登録操作を繰り返します。



7

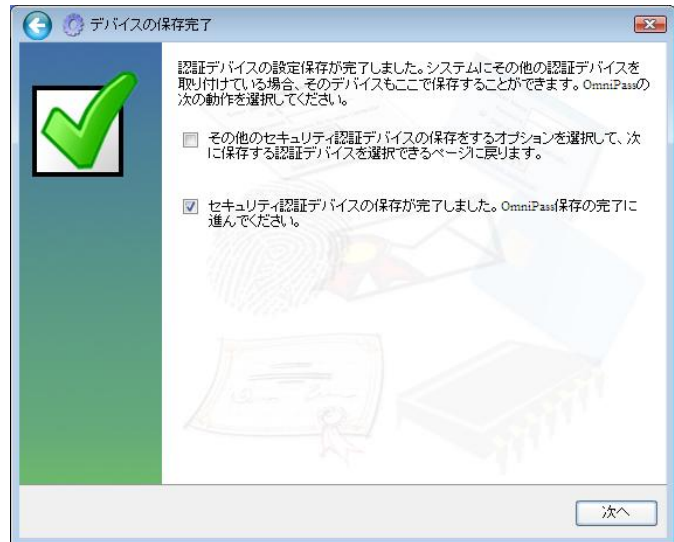
手順3の操作に戻り再登録する場合は、「その他のセキュリティ認証デバイスの保存をするオプションを選択して、次に保存する認証デバイスを選択できるページに戻ります。」

にチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックします。

次へ進む場合は、

「セキュリティ認証デバイスの保存が完了しました。OmniPass 保存の完了に進んでください。」

にチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックします。

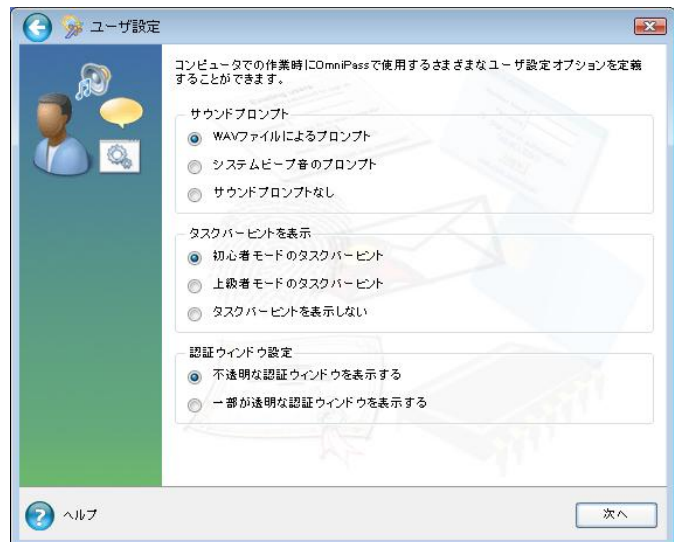


8

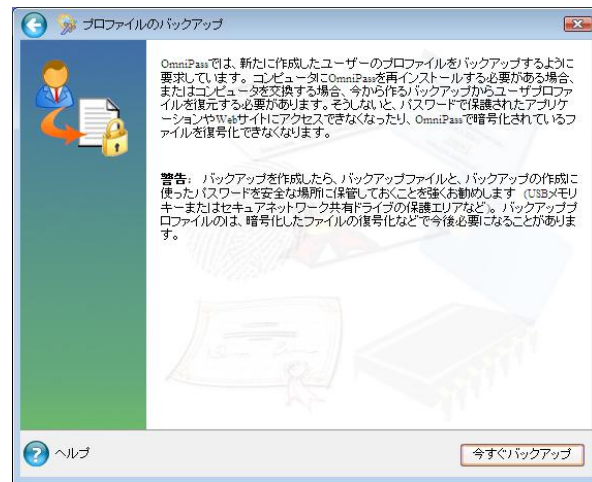
サウンドプロンプトの設定、タスクバーヒントの設定および認証ウィンドウの設定を行います。設定内容を確認して、「次へ」をクリックします。



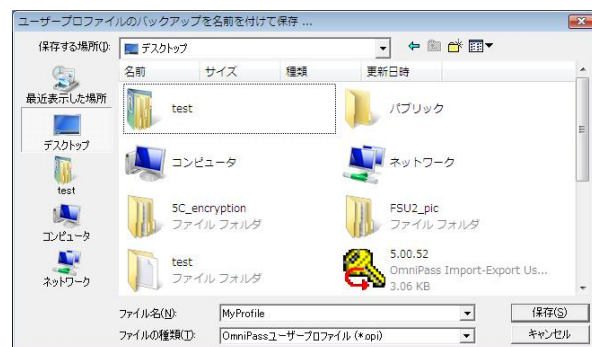
OmniPassが各種のOmniPass イベントをユーザに通知する方法を選択できます。OmniPass の操作方法に慣れるまで、初心者モードのタスクバーヒントおよびサウンドプロンプトをオンにすることを勧めます。



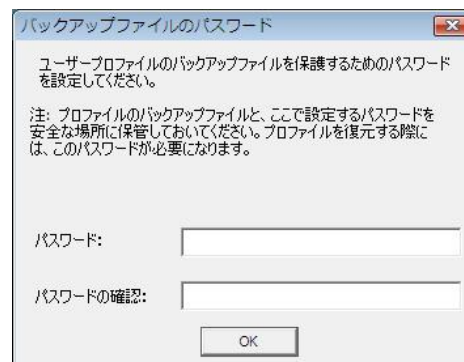
9 作成したユーザプロファイルのバックアップファイルを保存します。「今すぐバックアップ」をクリックします。



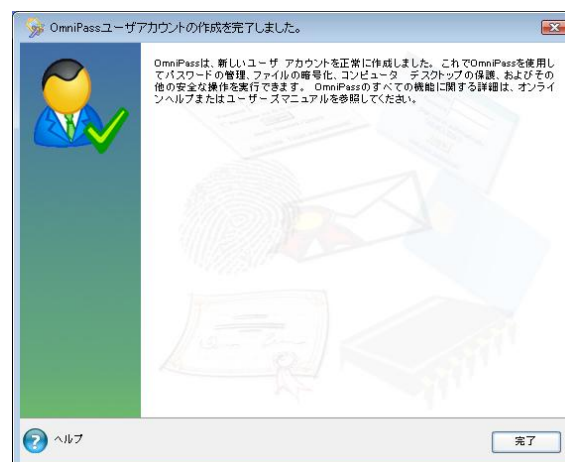
バックアップファイルを保存する場所とファイル名を入力し、「保存(S)」ボタンをクリックします。



バックアップファイルのパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。



10 以上でユーザ登録作業は終了です。「完了」ボタンをクリックします。



■OmniPass 認証ダイアログ

Windows を再起動すると、従来の Windows のログオンでは表示されなかった OmniPass 認証ダイアログが表示されます。これは、OmniPass 認証システムが呼び出されると常に表示されます。OmniPass 認証システムは、以下の場合に呼び出されます。

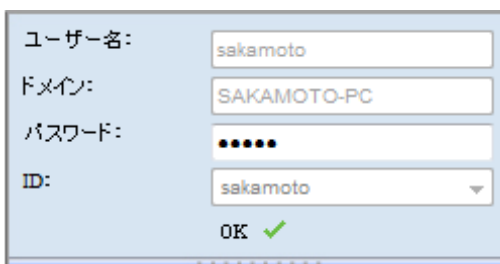
- (1) Windows のログオン時
- (2) OmniPass のログオン時
- (3) ワークステーションのロック解除時
- (4) スリープ/スタンバイまたは休止状態からの復帰時 (OmniPass とは別に設定が必要です)
- (5) パスワード対応のスクリーンセーバーのロック解除時
- (6) パスワード等を OmniPass に記憶したサイトを開いた時
- (7) ファイルまたはフォルダの暗号化・復号化実行時

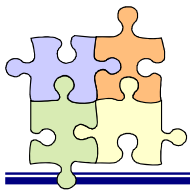


OmniPass ログオンダイアログが表示されない場合は、「6-2.トラブルシューティング」の「OmniPass ログオン画面が表示されない」の内容に従って問題を回避してください。

OmniPass 認証ダイアログの プルダウンボタンをクリックすると、各指紋センサーと「マスターパスワードの認証」の選択バーが表示されます。

右図で各認証方法をクリックすると、選択した認証画面が表示されます。





4-1.アカウント情報の記憶

OmniPass アカウント情報の記憶を行うことにより、アカウント入力（ユーザ ID、パスワード）が必要な Web サイトに指紋認証により自動的にログオンすることができます。何種類ものパスワードを覚えておく必要はありません。



OmniPass8.01.15 が対応しているブラウザは Microsoft Internet Explorer 9.x,10.x,11.x です。

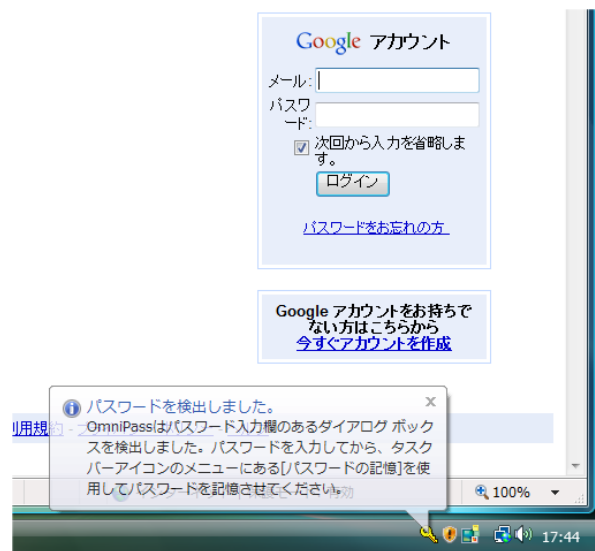
OmniPass8.00.14 が対応しているブラウザは Microsoft Internet Explorer 8.x,9.x,10.x です。

その他のブラウザでの動作は保証されていません。

■Web ログオンパスワードの記憶

1

アカウント入力を要求する Web サイトが開かれると、OmniPass はアカウント入力が要求されたことを自動検出し、「パスワードを検出しました」というメッセージを表示します。

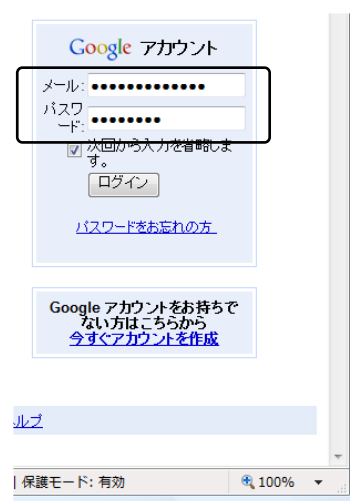


2

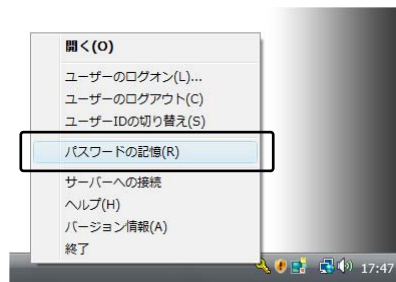
アカウント情報（右の Web サイトでは、ユーザのメールアドレスとパスワード）を入力した状態にします。



アカウント情報（ユーザ ID、メールアドレス、パスワード等）にかな漢字コードを使用できない場合があります。



3 タスクバーの OmniPass コントロールセンタを右クリックし、右クリックメニューより「パスワードの記憶(R)」を選択します。



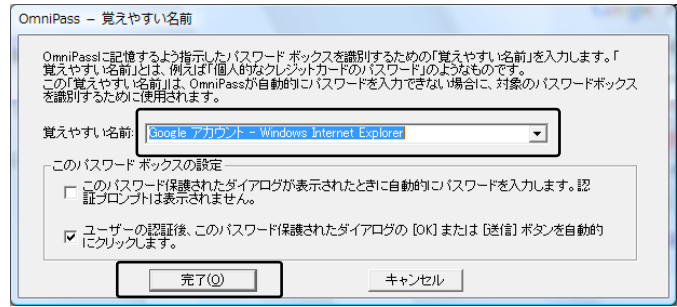
4 「パスワードの記憶中」が表示された状態で、OmniPass キー（右図の鍵マーク）をログオンプロンプト（アカウント入力ダイアログ）の近くにドラッグします。



5

OmniPass がアカウント情報を記憶すると、「覚えやすい名前」のダイアログが表示されます。「覚えやすい名前」を編集入力し、「完了(O)」ボタンをクリックします。

OmniPass に記憶させたアカウント情報は「パスワードの管理」に保管されています。



すでに OmniPass に記憶させた Web サイトに対して「パスワードの記憶」を再実行すると、OmniPass は現在記憶している Web サイトのアカウント情報（ユーザ ID やパスワード）を上書き更新します。

例えば、アカウントページのパスワードを **XXXXXX** で、すでに OmniPass に記憶させていたとします。ところが、ある日、新しいパスワード：**YYYYYY** への更新案内が送られてきて、今後は新しいパスワード：**YYYYYY** でログオンしなければいけなくなったと仮定します。その場合、アカウントページにアクセスして、OmniPass にログオンさせる代わりに新しいパスワード：**YYYYYY** を入力します。その後「ログオン」をクリックしないで、パスワードの記憶を使用してカーソルを OmniPass キーに変え、ログオンプロンプトの近傍をクリックします。OmniPass は確認を要求し、続いてアカウント情報を上書きします。上記の操作により、OmniPass に記憶させたユーザ ID は同じですが、パスワードは **XXXXXX** から **YYYYYY** へ更新されます。

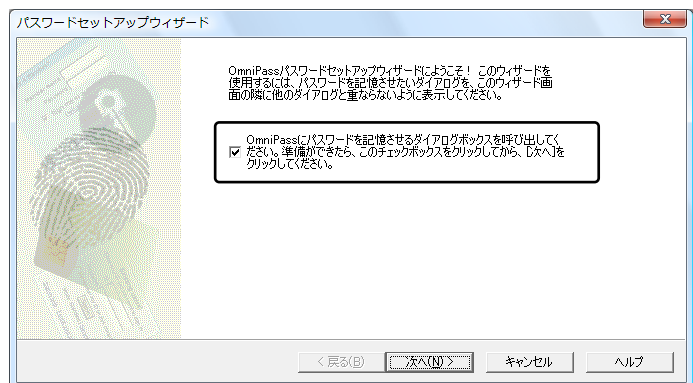
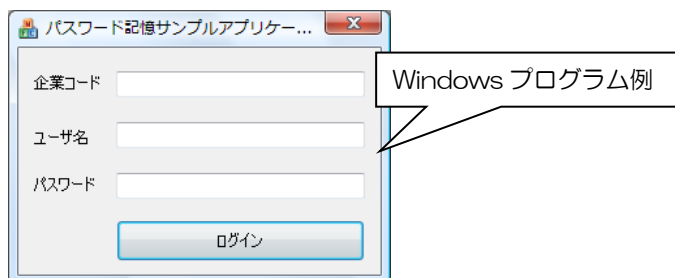
■アプリケーションログオンパスワードの記憶

OmniPass はアカウント入力を必要とするホームページ以外に、「パスワードセットアップウィザード」の機能を使って、アカウント入力を必要とする Windows プログラムのアカウント情報も記憶することができます。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「アカウントの管理」を選択します。「アカウント設定」メニューより、「パスワードウィザード」を選択します。



- 2 Windows プログラムのアカウント情報入力画面を「パスワードセットアップウィザード」の近くに表示させます。
作業が終了したら、「OmniPass にパスワードを記憶させるダイアログボックスを呼び出してください。・・・」をチェックし、「次へ(N)」をクリックします。

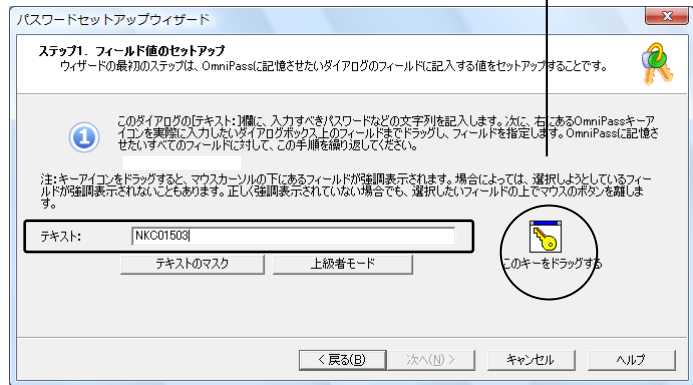
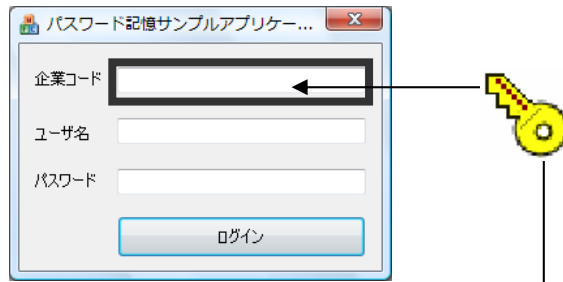


3

パスワードセットアップウィザードの「テキスト」欄に適切なアカウントデータを入力し、「このキーをドラッグ」をドラッグし、Windowsプログラムの該当入力欄の上へドロップします。右Windowsプログラムの例では、最初に企業コードのフィールド設定を行っています。

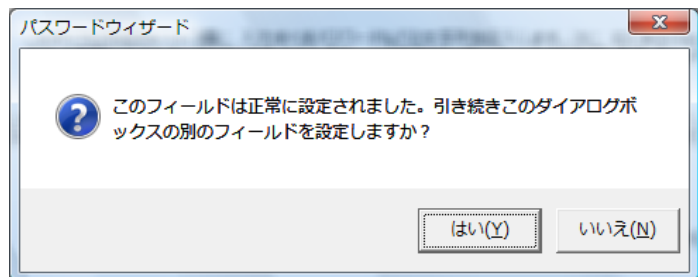


Windowsプログラムの入力欄へ直接入力しないでください。



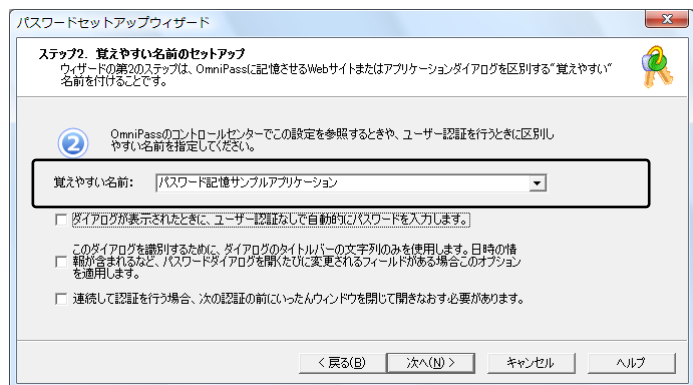
4

一つのフィールドの設定が終了すると右確認メッセージが表示されます。引き続きフィールド入力を行う場合は「はい (Y)」をクリックします。右の例では、企業コードの次に「ユーザ名」と「パスワード」の設定が必要です。全ての入力が完了したら、「いいえ (N)」をクリックします。



5

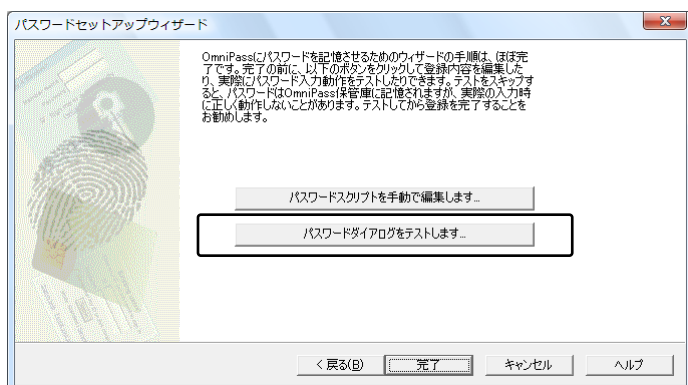
Windowsプログラムの名前を「覚えやすい名前」に入力し、「次へ(N)」をクリックします。



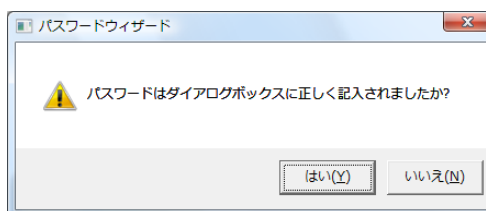
6 Windows プログラムで最後に操作するボタンを指定します。「このアイコンをドラッグ」をドラッグし、操作するボタンの上へドロップします。OmniPass への記憶操作は以上で終了です。「次へ(N)」をクリックします。



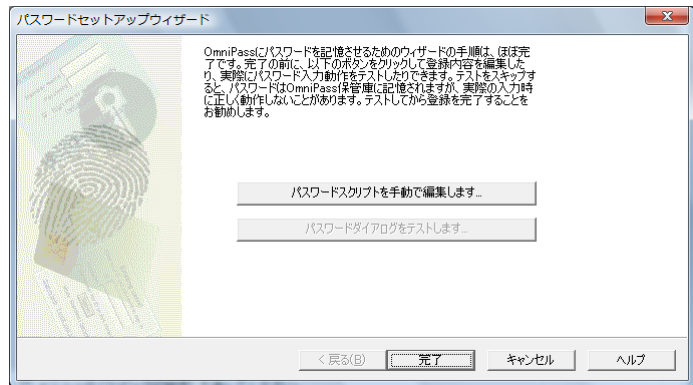
7 「パスワードダイアログをテストします」をクリックします。



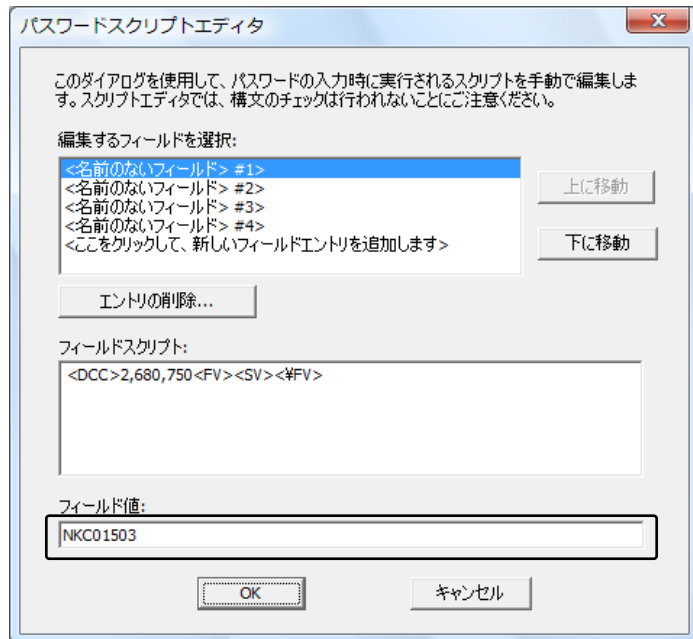
8 テスト結果に問題がなければ、「はい(Y)」をクリックします。



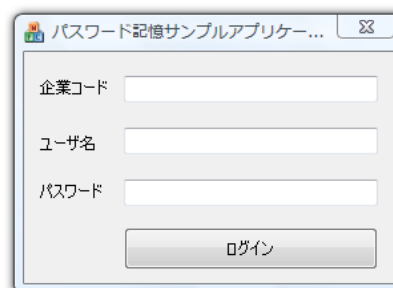
9 最後に「完了」をクリックします。



10 手順 7 で「パスワードスクリプトを手動で編集します」をクリックすると、右スクリプト編集画面が表示されます。編集が必要な場合は、ここで編集することができます。



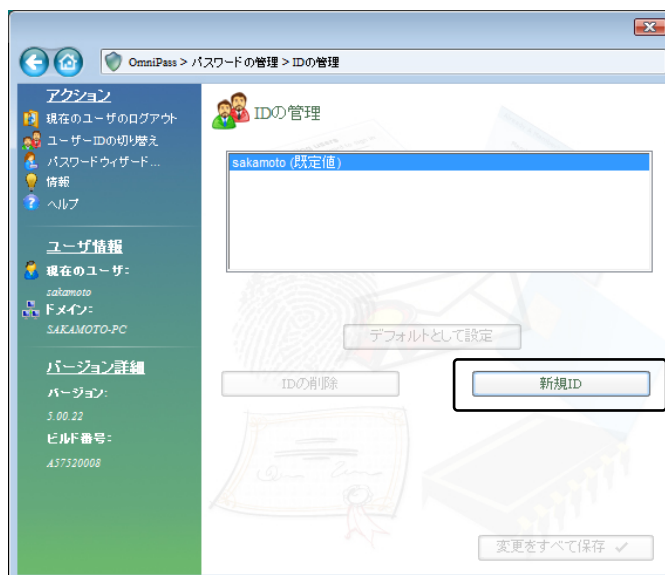
次回より、Windows プログラムのアカウント入力が表示されると、OmniPass 指紋認証ダイアログが表示されます。アカウント情報を入力する代わりに、OmniPass の指紋認証だけでログオンすることができます。



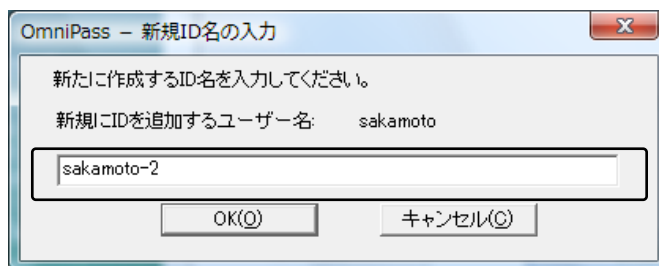
■IDの管理

一人の人が同一の Web サイトで複数のアカウントを取得している場合についても、OmniPass にアカウント情報を記憶させて OmniPass 指紋認証機能を使用することができます。複数のアカウントを管理する場合は、一人のユーザに対して複数の ID を作成し、それぞれの ID に一つのアカウント情報を設定します。

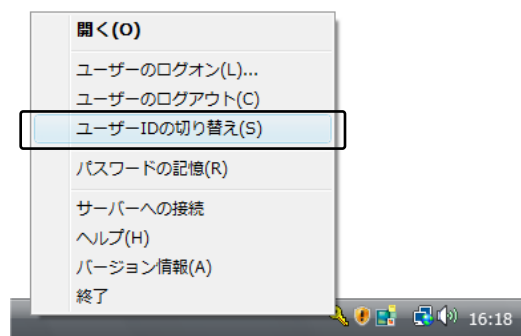
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「パスワードの管理」を選択します。新しい ID を追加する場合は、「新規 ID」をクリックします。



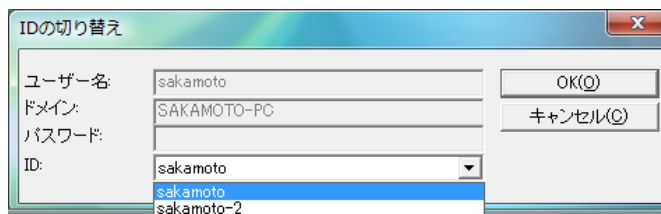
- 2 「ユーザ名に対する新規 ID」を入力し、「OK(O)」をクリックします。OmniPass コントロールセンタの設定は以上です。



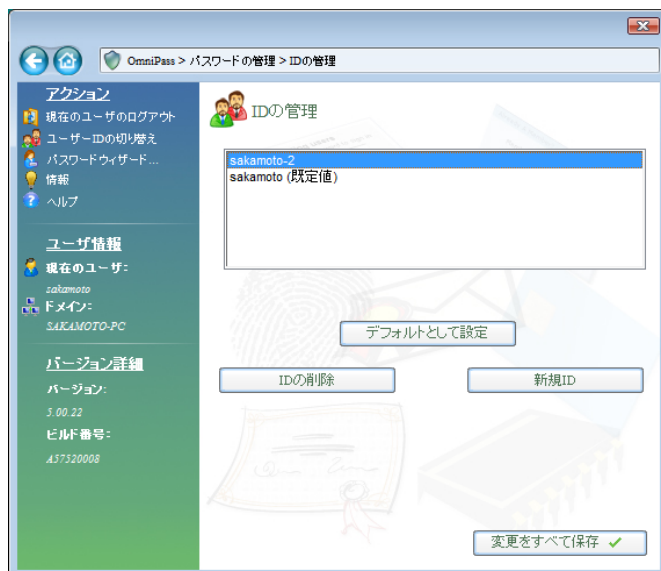
- 3 同一の Web サイトで複数のアカウント情報を記憶させる場合は、「ログオンパスワードの記憶」を行う前に「ユーザ ID の切り替え(S)」を行い、ユーザ ID ごとに一つのアカウントを記憶させます。ユーザ ID の変更は、タスクバーの「OmniPass コントロールセンタ」を右クリックし、「ユーザ ID の切り替え(S)」を選択します。

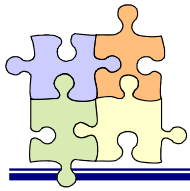


- 4 「ID の切り替え」ダイアログより、変更したい ID を選択します。ID 変更後、ログオンパスワードの記憶を実行します。



- 5 各ユーザ ID の「パスワード管理」は、OmniPass コントロールセンタの「アカウントの管理」のページの「パスワード管理」より行うことができます。右の「ID」を選択することにより、ID ごとに記憶されたパスワード情報等が表示されます。





4-2. 暗号化と復号化

OmniPass はフォルダ単位・ファイル単位での暗号化と復号化を行うことができます。また、OmniPass 暗号化ファイルは複数の OmniPass 登録ユーザと共有することができます。

■暗号化

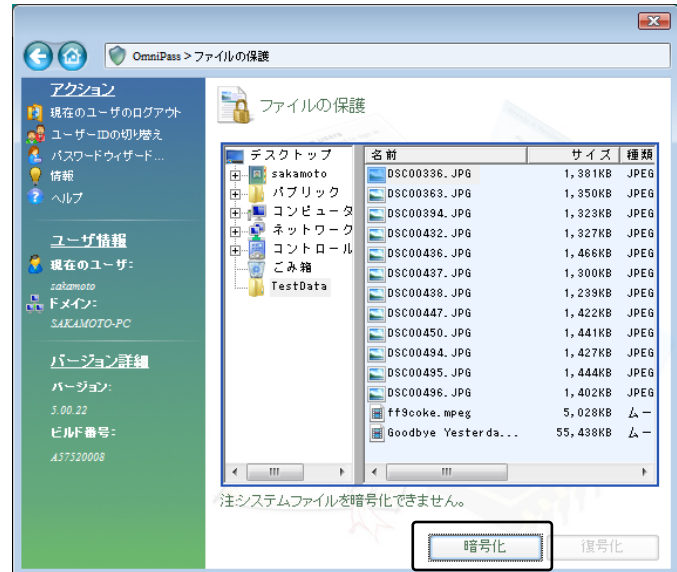
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ファイルの保護」を選択します。暗号化を行うフォルダもしくはファイルを選択し、「暗号化」をクリックします。

※ 64ビット版OSではOmniPassコントロールセンタにこの機能はありません。暗号化する場合は本項目の6をご参照ください。

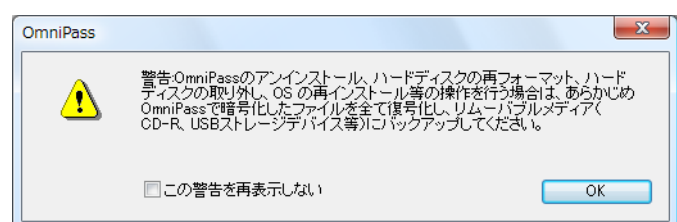


“C:¥Windows” に格納された Windows のシステムファイル、“C:¥Program Files” にインストールされたプログラム、OmniPass がインストールされているフォルダは、暗号化することができません。

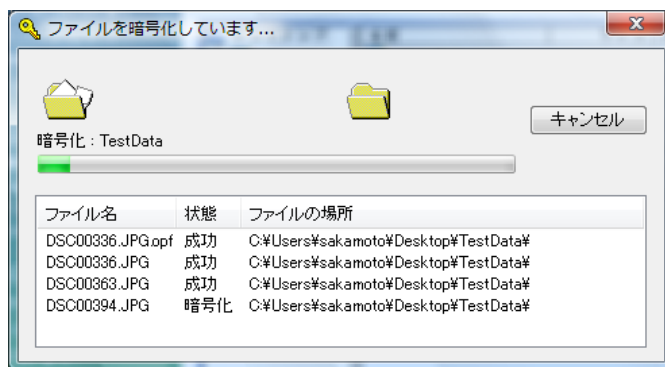
- 2 暗号化のための認証を行います。



- 3 暗号化を行うための認証が完了すると警告メッセージが表示されます。内容を確認して「OK」をクリックします。



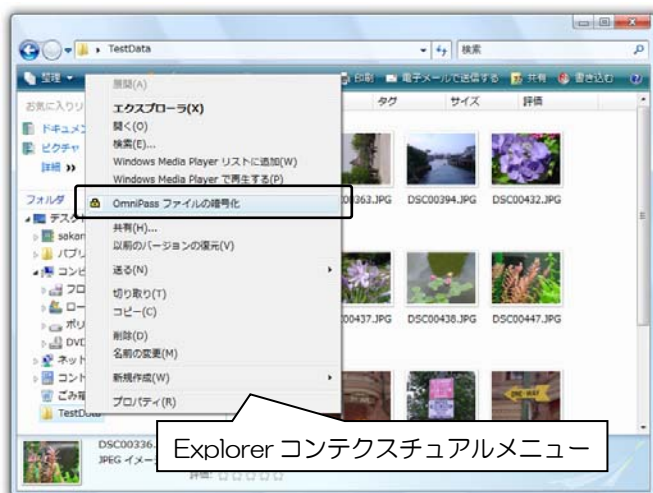
4 暗号化が行われます。



5 暗号化を行ったフォルダもしくはファイルは鍵の付いた新しいアイコンで表示されます。ファイルの拡張子は「.opf」、フォルダの拡張子は「.opof」に変換されます。



6 暗号化の操作は Windows Explorer から行うこともできます。マウスの右クリックでコンテキストメニューを表示し、「OmniPass ファイルの暗号化」を選択すると上記と同じ暗号化の操作を行うことができます。



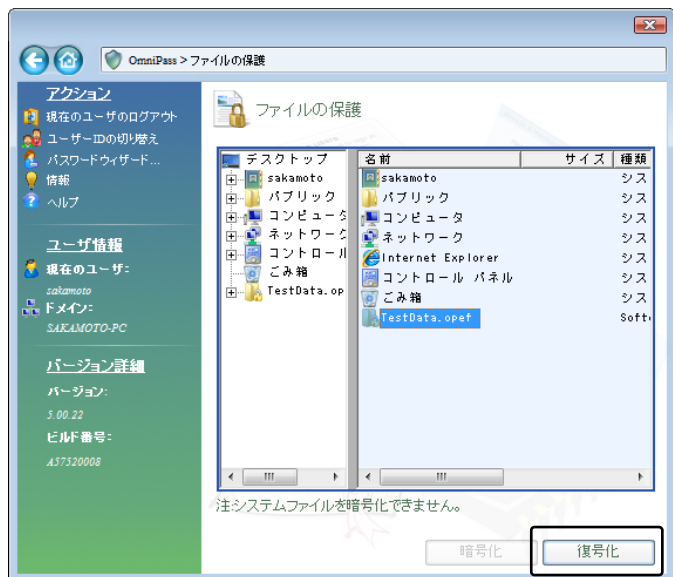
■復号化

1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ファイルの保護」のページを選択します。

復号化を行いたいフォルダもしくはファイルを選択し、「復号化」をクリックします。

マウスの右クリックでコンテキストメニューを表示し、「OmniPass ファイルの復号化」を選択して、復号化の操作を行うこともできます。

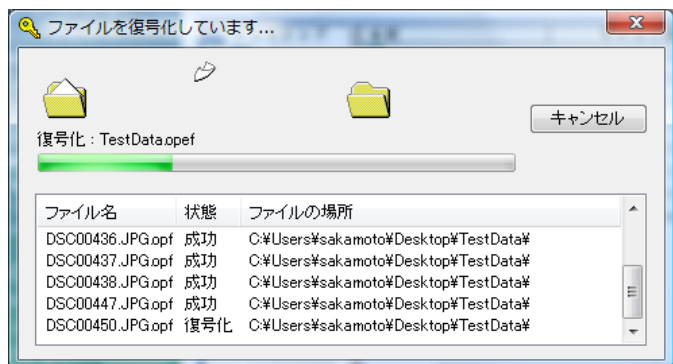
※ 64ビット版OSではOmniPassコントロールセンタにこの機能はありません。復号化する場合は右クリックより行ってください。



2 復号化のための認証を行います。



3 認証に成功すると自動的に復号化が行われます。



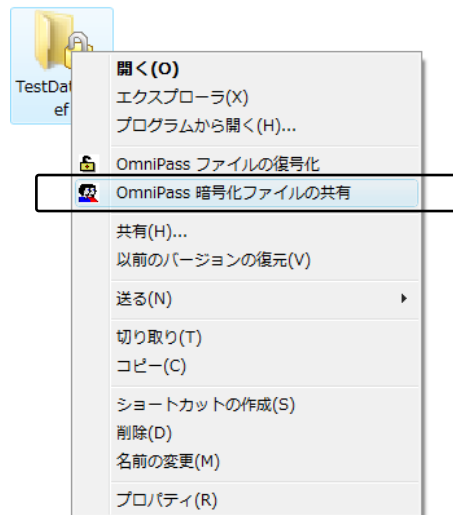
復号化を行う方法として、Explorer に表示された暗号化ファイル・暗号化フォルダをマウスから直接ダブルクリックする方法があります。

フォルダをダブルクリックすると暗号化フォルダは一旦復号化されますが、フォルダ内の暗号化ファイルを編集し、フォルダを閉じると暗号化された状態になります。

暗号化ファイルの場合、ダブルクリックで開くと復号化されます。

■暗号化ファイルの共有

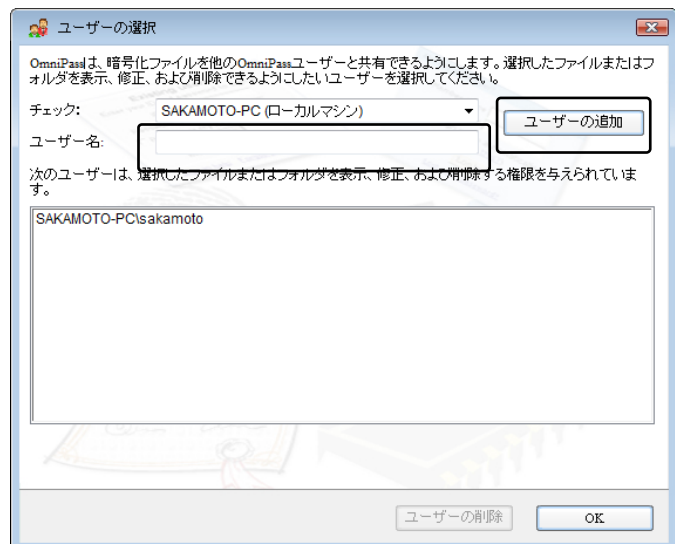
- 1 Windows Explorer からマウスの右クリックでメニューを表示し、「OmniPass 暗号化ファイルの共有」を選択します。



- 2 暗号化ファイル共有のための認証を行います。

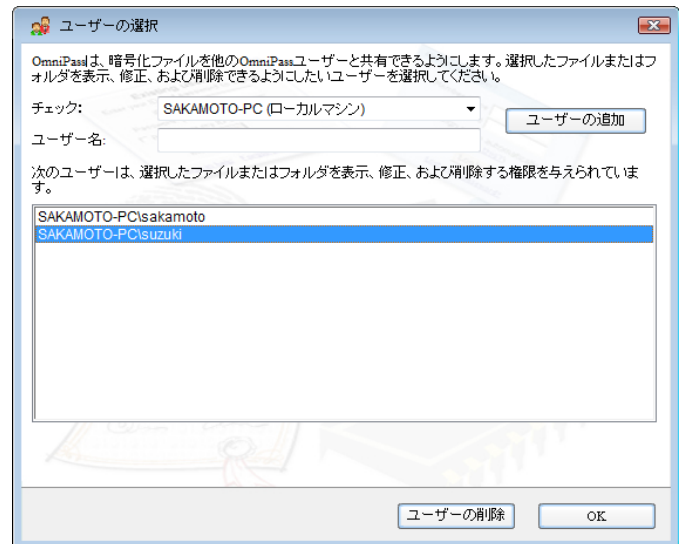


- 3 暗号化ファイルの共有を行いたい OmniPass に登録されたユーザ名を入力し、「ユーザの追加」のボタンをクリックします。



4

下部の一覧に共有化を許可するユーザが追加されます。



OmniPass 暗号化ファイルやフォルダを共有すると、共有するユーザとの間で共有されたリソースを効果的に制御することができます。一旦共有の許可を行うと、許可されたユーザはすべてのファイルのコピー・編集を行うことができ、更には OmniPass ユーザのリストから全てのユーザを排除することができます。許可を与えたユーザが暗号化されたリソースの制御をできないようにすることも可能となりますので、注意してください。



ファイルの共有を許可されたユーザが復号化の操作を行う場合は、ユーザは OmniPass にログオンする必要があります。OmniPass にログオンしていない状態で、ファイルの復号化を行うことはできません。

5-1. ユーザの追加と削除

OmniPass ユーザの追加ではユーザ名とパスワードが必要になります。ユーザの追加を行う場合は、先に追加するユーザ Windows のログオンパスワードを作成してください。

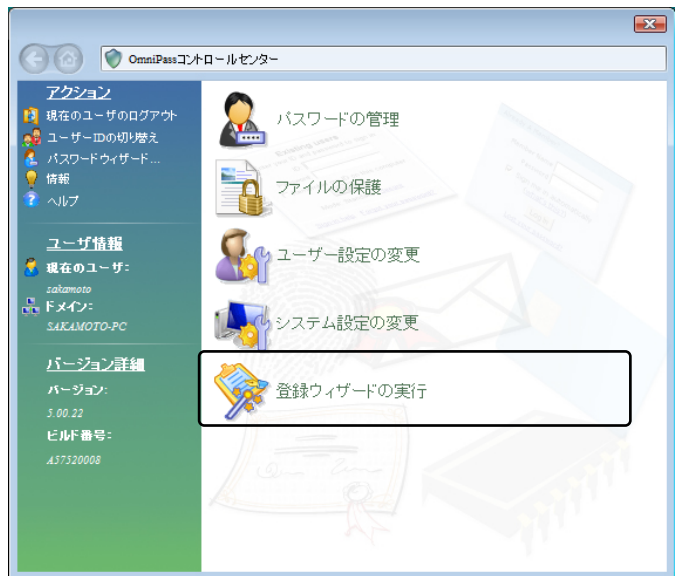
■ユーザの追加

1 タスクバーに格納された鍵マーク（OmniPass コントロールセンタ）をダブルクリックします。



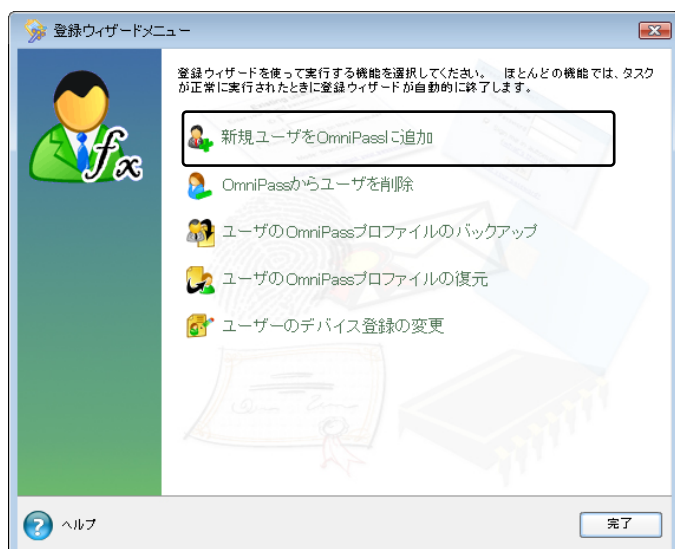
OmniPass コントロールセンタ

2 「登録ウィザードの実行」を選択します。



3 次に「新規ユーザを OmniPass に追加」を選択します。

以降の操作は、3-2.OmniPass ユーザ登録で説明されている手順2からに従ってユーザ登録を行います。



■ユーザの削除



ユーザを削除すると、そのユーザに関連付けられた OmniPass データは自動的に破棄されます。また、そのユーザが暗号化したファイルは復号化できなくなります。

削除を行う前に、以下の操作を行うことを推奨します。

- (1) OmniPass ユーザプロファイルのバックアップを行う。
- (2) 全ての OmniPass 暗号化ファイル・フォルダを復号化する。
- (3) 記憶させた Web およびアプリのアカウント・パスワード情報のメモを取っておく。

1

OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。

右画面より「OmniPass からユーザを削除」をクリックします。



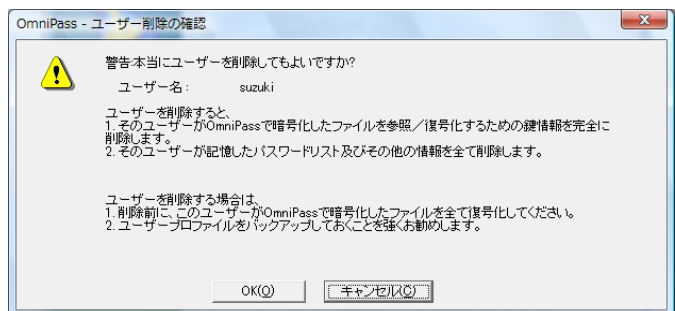
2

削除を行うユーザの指紋認証を行います。

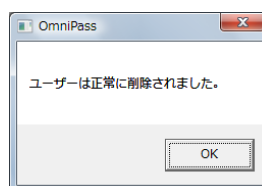


3

削除されるユーザ名と警告の内容を確認して、事前に適切な処置を行った後、問題がなければ「OK(O)」をクリックします。



削除完了確認画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックします。



第5章 管理と設定

5-2. アカウント情報の管理

「ログオンパスワードの記憶」で OmniPass に記憶させたパスワード情報をパスワードの管理で参照することができます。万が一、パスワードを忘れた場合にも確認できます。

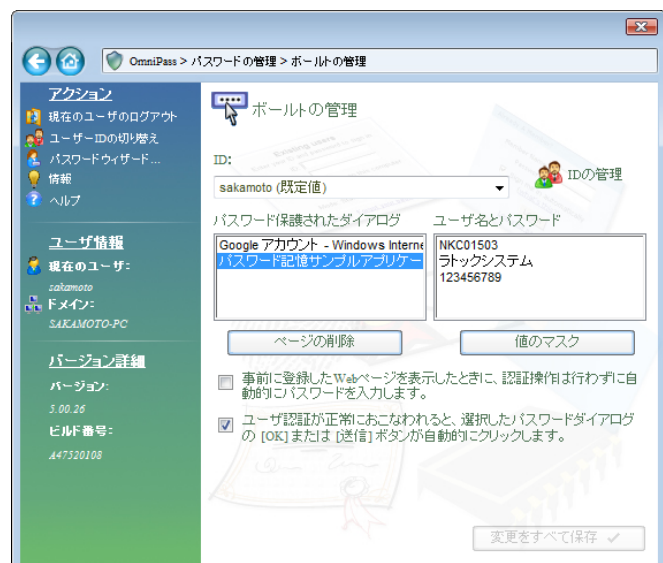
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「パスワードの管理」を選択します。



- 2 「パスワードの管理」を開くためには、右の認証作業を行います。



- 3 「ボルトの管理」頁が開きます。「パスワード保護されたダイアログ」に OmniPass が記憶した Web サイトおよび Windows プログラムの名前が表示されます。「ユーザ名とパスワード」に各サイトのアカウント情報が表示されます。「値のマスク解除」をクリックしてパスワードの内容を確認できます。また、「ページの削除」をクリックして、記憶した情報を削除することができます。

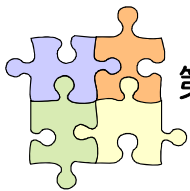


OmniPass による記憶されたサイトの処理方法には、下記の 3 つの設定があります。

- (1)「事前に登録した Web ページを表示したときに、認証操作は行わずに自動的にパスワードを入力します。」
- (2)「ユーザ認証が正常におこなわれると、選択したパスワードダイアログの「OK」または「送信」ボタンを自動的にクリックします。」
- (3) 上記のいずれにもチェックを入れない設定。

4-1. アカウント情報の記憶の手順 4 で設定した内容が表示されます。

- (1) の設定は、あまり安全ではありません。(1) の設定を有効にすると、このサイトに移動するたびに、OmniPass は認証を要求せずにサイトに自動的にログインします。
 - (2) の設定にすると、OmniPass に記憶されたサイトを開くたびに、ユーザ認証が要求されます。認証に成功すると、このサイトに自動的にログインします。
 - (3) の設定にすると、OmniPass に記憶されたサイトを開くたびに、ユーザ認証を要求します。認証に成功すると、サイトの入力位置へアカウント情報（ユーザ ID やパスワード）は自動的に記入されますが、サイトにログインするためには、Web サイトの OK、送信、またはログインボタンをクリックする必要があります。
-



第5章 管理と設定

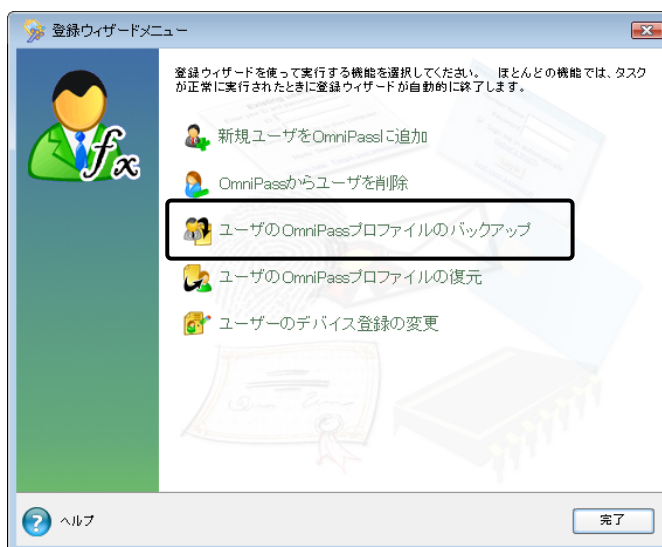
5-3. プロファイルのバックアップと復元

ユーザプロフィールのバックアップにより、OmniPass に記憶させたサイトのアカウント情報、登録した指紋データをバックアップすることができます。OmniPass のアンインストールを行う前に、必ずユーザプロフィールのバックアップを行ってください。

職場のパソコンで暗号化したファイルを自宅のパソコンに持ち帰って復号化したいというような場合、暗号化を行ったパソコンでバックアップしたユーザプロフィールを復号化したいパソコンに復元します。

■ユーザプロフィールのバックアップ

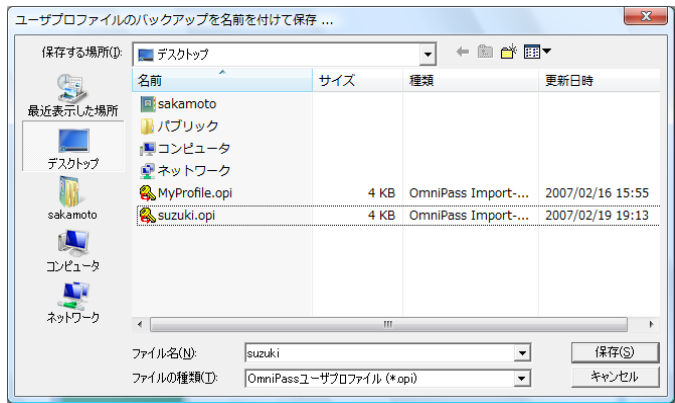
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。
右画面より「ユーザの OmniPass プロファイルのバックアップ」をクリックします。



- 2 バックアップのための認証を行います。



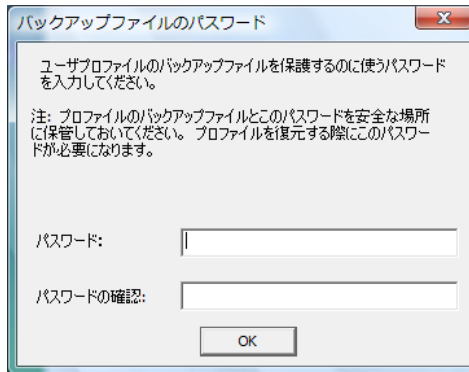
3 バックアップファイルの保存先とファイル名を設定し、「保存(S)」をクリックします。



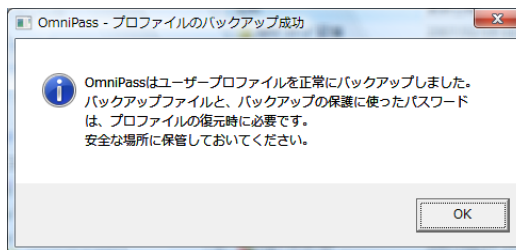
4 バックアップファイルのパスワードを入力し、「OK」をクリックします。



このパスワードは復元の際に使用しますので、必ず他の場所に記録しておくようにします。



5 「プロファイルのバックアップ成功」のメッセージが表示されます。「OK」をクリックします。
保存した場所に「xxx.opi」ファイルが作成されます。



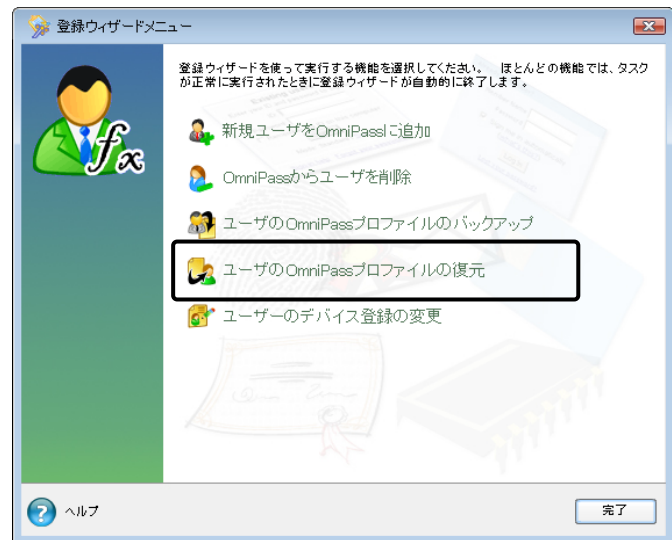
■ユーザプロファイルの復元

1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。

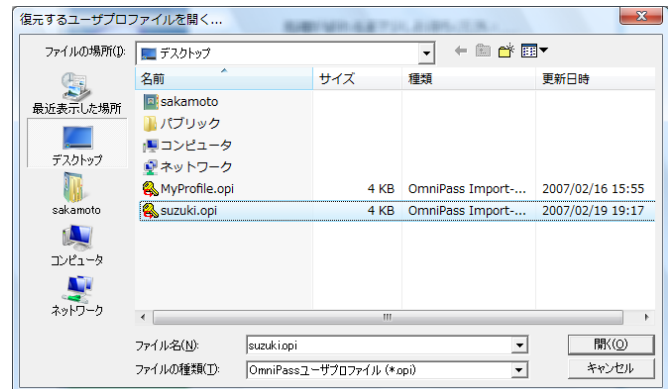
右画面より「ユーザの OmniPass プロファイルの復元」をクリックします。



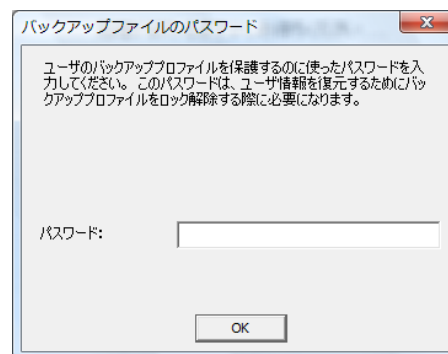
同じ名前のユーザが既に登録されている場合、プロフィールを復元することはできません。



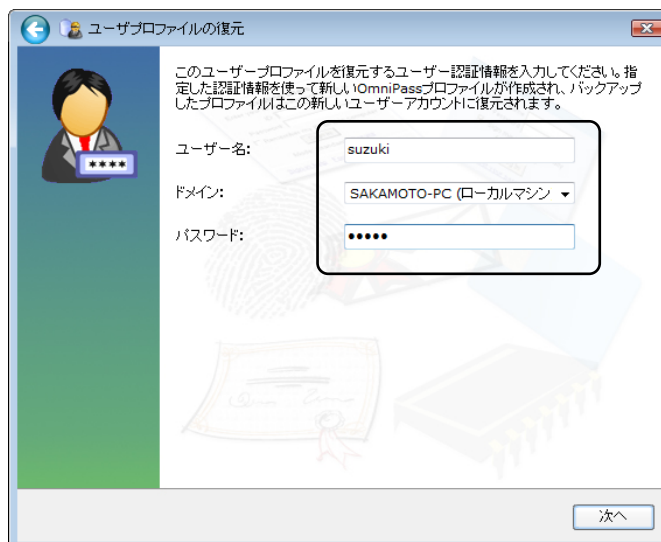
2 復元したいユーザプロファイルが保存されている場所とファイル名を指定し、「開く(O)」をクリックします。



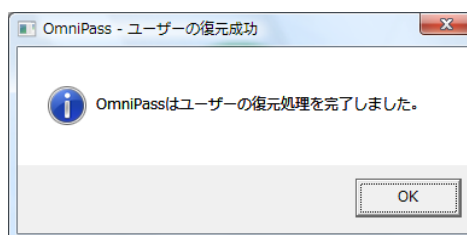
3 ユーザプロファイルのバックアップを行ったときに設定したパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

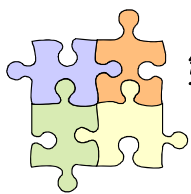


- 4 ユーザープロファイルのバックアップを行った時に使用していた「ユーザー名」・「ドメイン名」・「パスワード」を入力して「次へ」をクリックします。



- 5 「ユーザーのインポート完了」メッセージが表示されます。「OK」をクリックします。





第5章 管理と設定

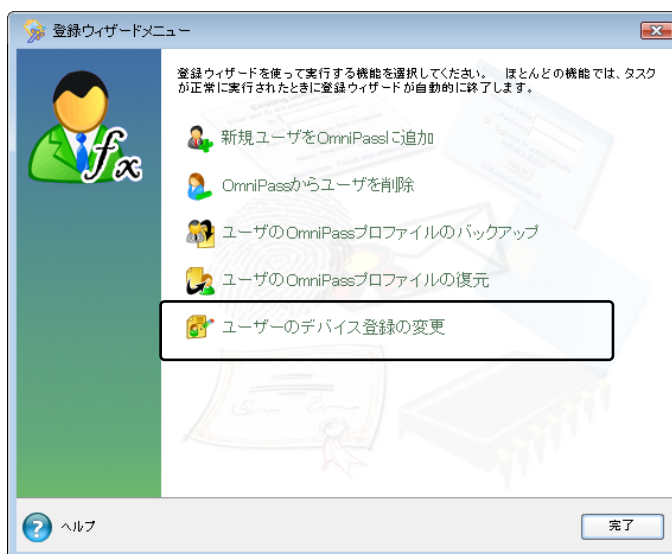
5-4. OmniPass コントロールセンタその他の設定

OmniPass のその他の設定機能について説明します。

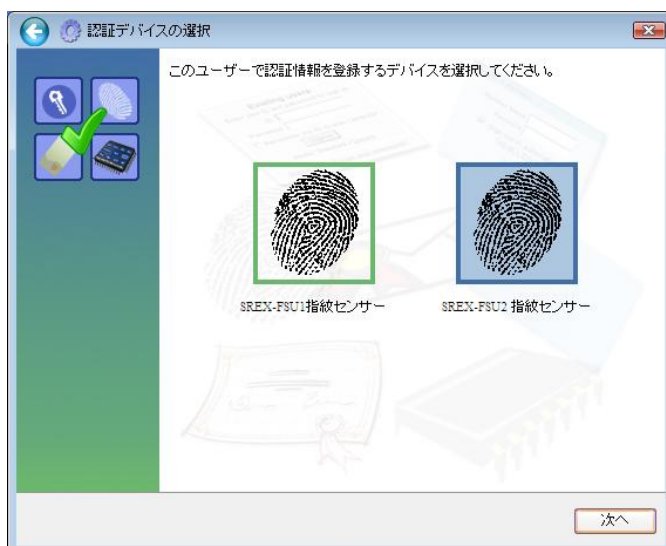
■ユーザのデバイス登録の変更

「認証デバイスの登録」は、既に登録されたユーザについて、別の指の指紋データも追加登録したい場合に使用します。将来、OmniPass で別の認証デバイスが追加サポートされた場合に、「認証デバイスの登録」よりそのデバイスを登録して、認証に使用することができます。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。
右画面より「ユーザのデバイス登録の変更」をクリックします。

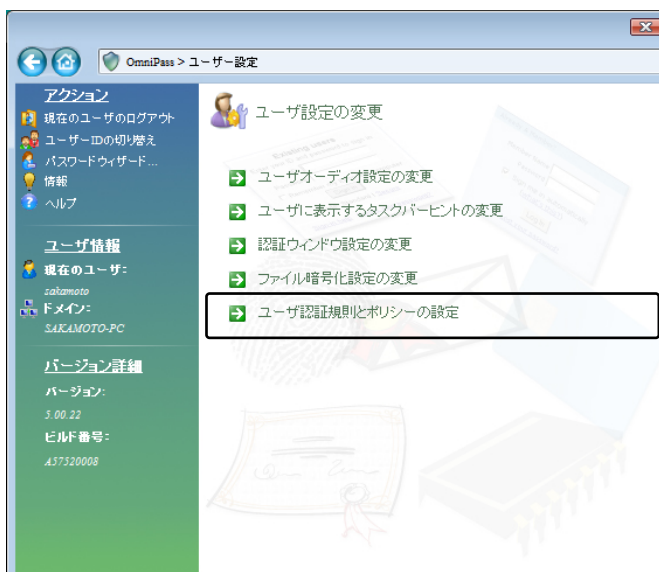


- 2 登録に使用するセンサを選択して、「次へ」をクリックします。
以後の操作は、3-2.OmniPass ユーザ登録の3からの手順と同じです。



■ 認証デバイスの必須設定

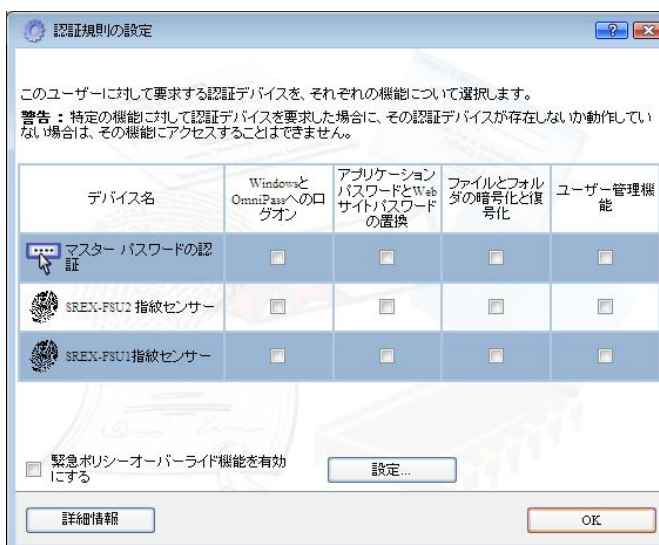
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。右画面より「ユーザ認証規則とポリシーの設定」をクリックします。



- 2 認証規則の設定のための認証を行います。



- 3 認証デバイスの必須設定では、
 - ① Windows と OmniPass へのログオン
 - ② アプリケーションパスワードと Web サイトパスワードの置換
 - ③ ファイルとフォルダの暗号化と復号化
 - ④ ユーザ管理機能を行う際に、それぞれの認証方式(指紋認証/パスワード認証)を必須とするか否かの設定を行うことができます。

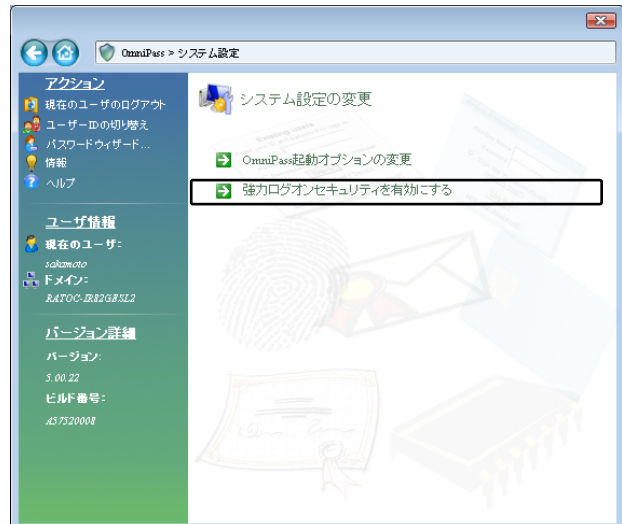


1. Windows XP 環境では、「Windows と OmniPass へのログオン」のオプションは「強力ログオンセキュリティを有効にする」を選択するまで使用できません。(次ページ参照)
2. 必須設定として登録されている操作で認証ができない場合、その操作を続行できませんので「緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする」を有効にすることをおすすめいたします。(次ページ参照)

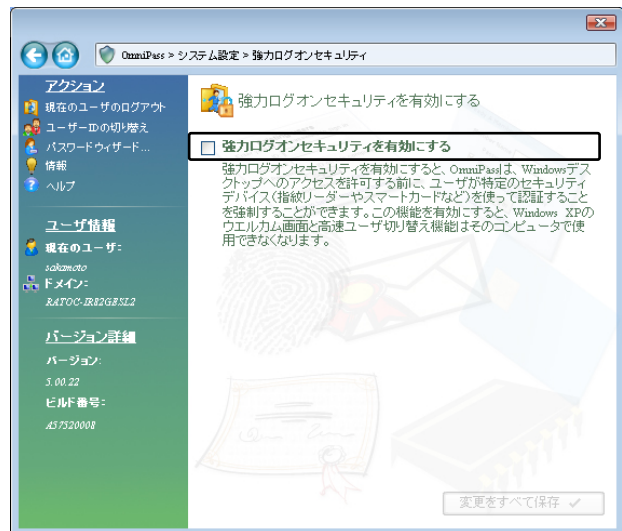
■強力ログオンセキュリティを有効にする（WindowsXP のみ）

OmniPass コントロールセンタを起動します。

「システム設定の変更」のページを開き、「強力ログオンセキュリティを有効にする」をクリックします。



「強力ログオンセキュリティを有効にする」にチェックを入れると、WindowsXP のログオン画面でアカウント登録された全てのユーザ表示は行われなくなり、ユーザ名とパスワード入力画面が表示されるようになります。

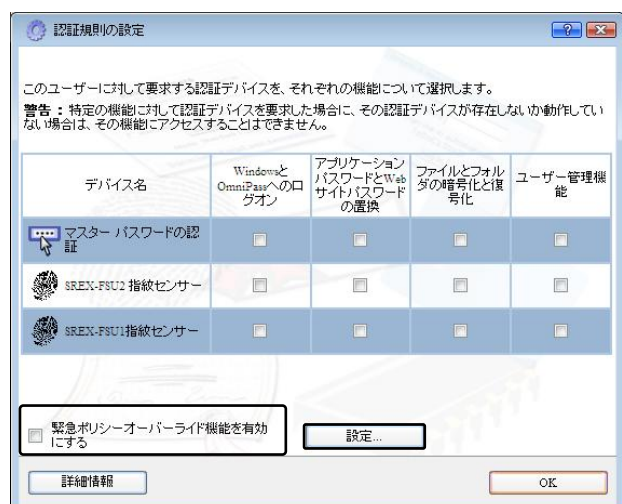


■緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする

「緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする」にチェックを入れると、認証が必要な操作で認証できない場合に、設定した回答を入力することで認証作業を回避することができます。

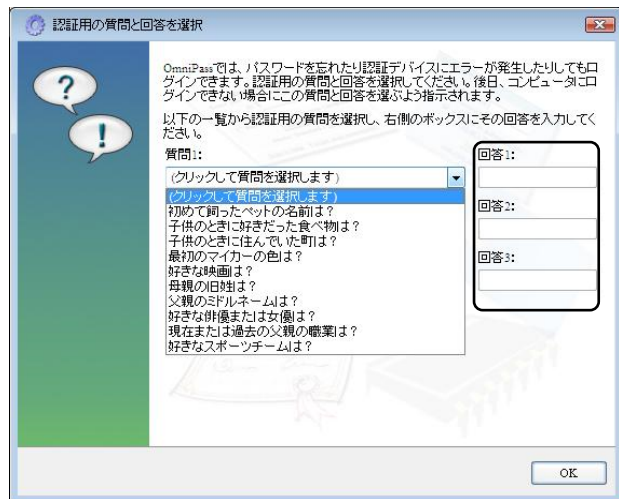
設定方法は以下の通りとなります。

「認証規則の設定」ダイアログで「設定」ボタンをクリックします。



「認証用の質問と回答を選択」ダイアログが出力されますので、質問 1~3 を選択し、回答 1~3 に回答を入力します。

「OK」ボタンをクリックします。



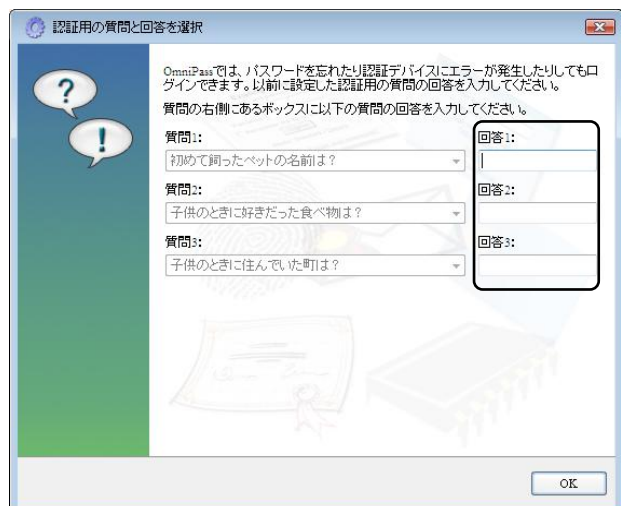
使用方法は以下の通りとなります。
認証画面の「ログインできません」をクリックします。



「緊急ポリシーオーバーライド」ダイアログが出力されますので、ユーザ名とドメイン名を入力し「OK」ボタンをクリックします。



設定した回答 1~3 を入力し「OK」ボタンをクリックします。



■OmniPass へのログオン設定

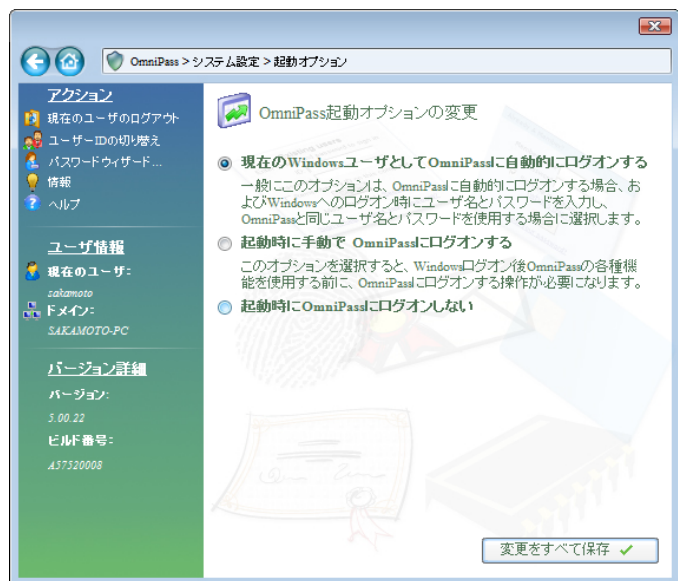
Windows ログオンユーザが OmniPass の機能を使用するためには、OmniPass へログオンする必要があります。

OmniPass コントロールセンタを起動します。右画面より、「システム設定の変更」メニューを選択し「OmniPass 起動オプションの変更」をクリックします。



「起動オプション」より 3 種類の OmniPass へのログオン方法を選択することができます。

- (1) 現在の Windows ユーザとして OmniPass に自動的にログオンする (デフォルト値)
- (2) 起動時に手動で OmniPass にログオンする
- (3) 起動時に OmniPass にログオンしない



(1) の設定が選択されていると、Windows にログオンした後、Windows 起動後に OmniPass に自動的にログオンします。

(2) の設定が選択されていると、OmniPass は Windows 起動後にユーザに OmniPass にログオンするように要求します。

(3) の設定が選択されていると、OmniPass はユーザに OmniPass にログオンするように要求しません。

タスクバーに登録された鍵マークの OmniPass 上にカーソルを移動することにより、現在 OmniPass にログオンしているユーザ名を確認することができます。

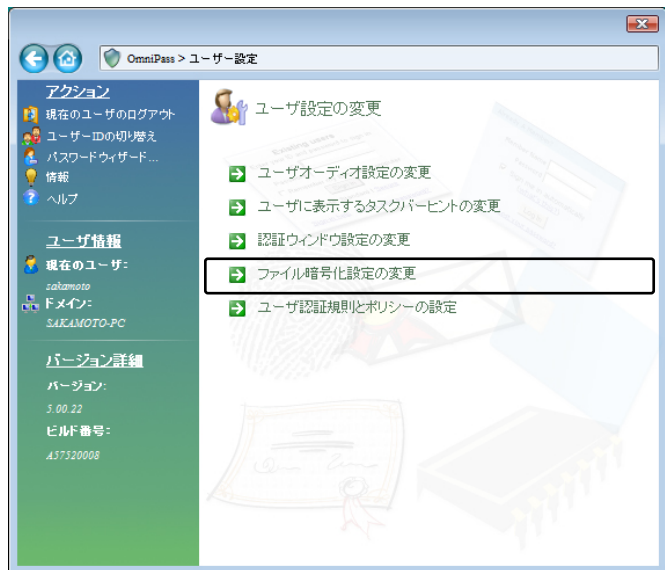
同様にマウス右クリックより、「ユーザのログオン(L)」もしくは「現在のユーザのログアウト(C)」を選択することにより、Windows を起動したまま OmniPass ログオンユーザを切り替えることができます。



■暗号化／復号化の設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザー設定の変更」を選択します。

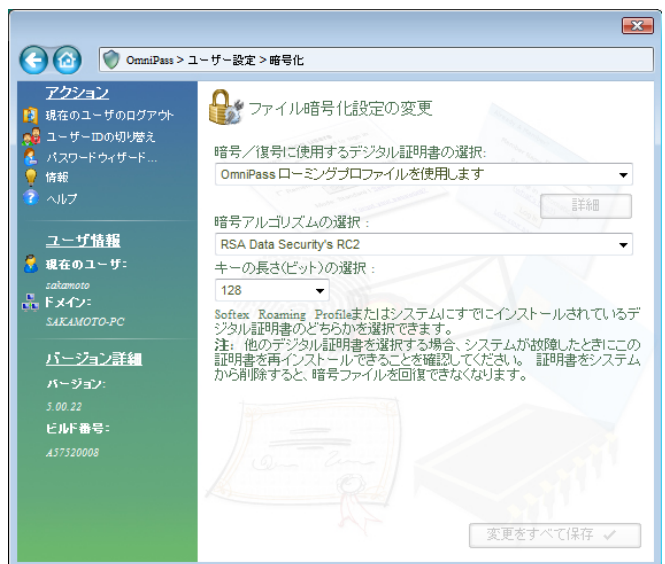
右画面より「ファイル暗号化設定の変更」をクリックします。



「アルゴリズムの選択」から、

- RSA Data Security's RC2
- RSA Data Security's RC4
- Data Encryption Standard (DES)
- Two Key Triple DES
- Three Key Triple DES

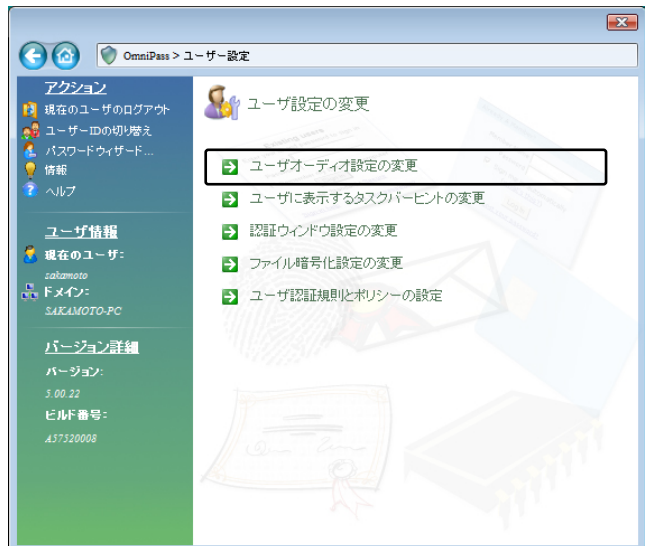
を選択することができます。上から下の順で暗号化セキュリティの信頼性は高くなりますが、暗号化・復号化に要する時間は長くなります。



■サウンドの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「ユーザオーディオ設定の変更」をクリックします。



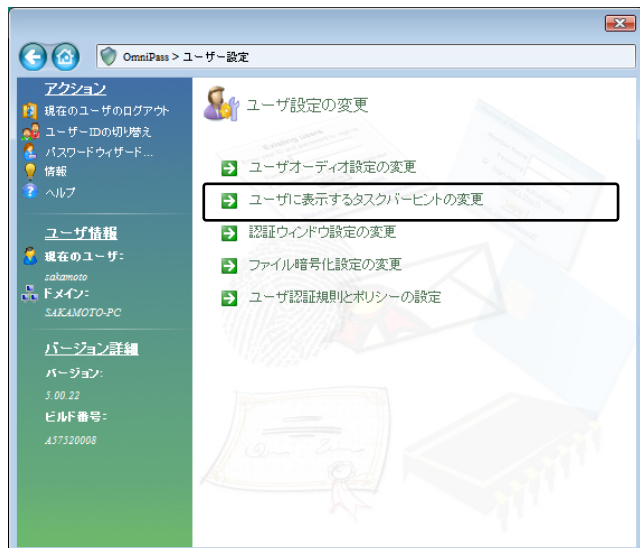
OmniPass のイベント（例えば、ログオン認証に成功した時、認証が拒否されたときなど）をサウンドでユーザに通知する方法を設定できます。



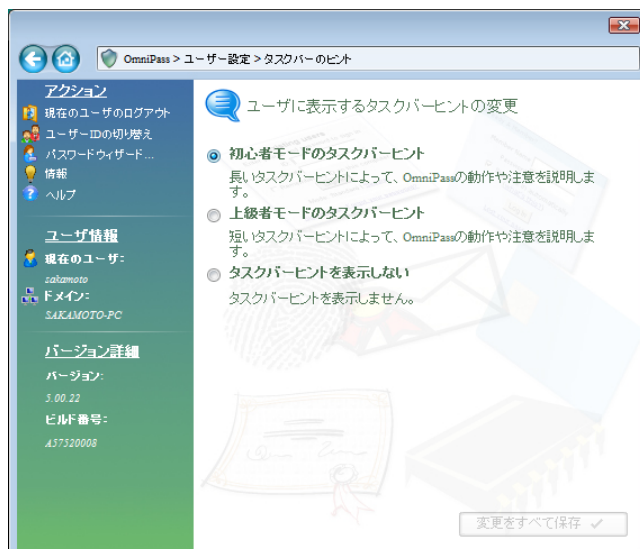
■タスクバーヒントの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「ユーザに表示するタスクバーヒントの変更」をクリックします。



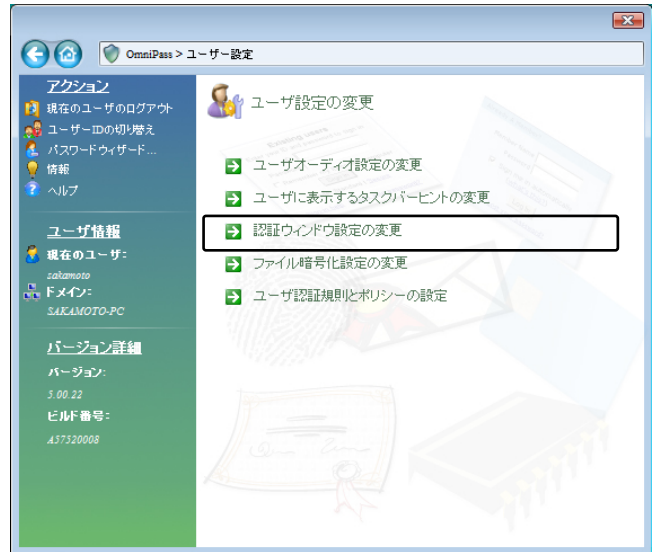
タスクバーのヒントを表示するという設定にしていれば、OmniPass は「パスワードを記憶」できるタイミングを常に通知しますので、ユーザにログオンを要求する任意の認証イベントを記憶することができます。



■ 認証ウィンドウの設定

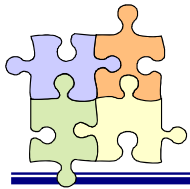
OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「認証ウィンドウ設定の変更」をクリックします。



「透明な認証ウィンドウ」を選択すると、認証画面の透明度を設定することができます。





6-1. アプリケーション API

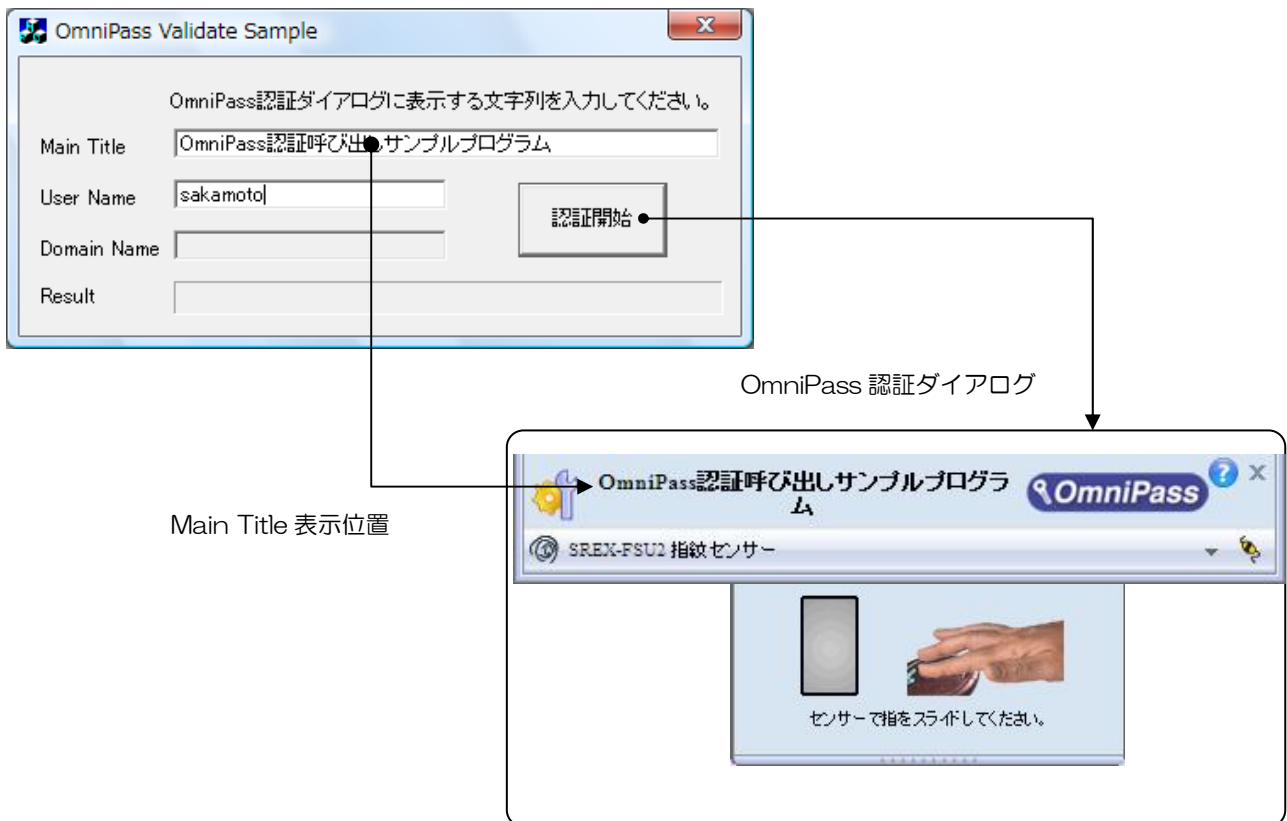
アプリケーションプログラムから OmniPass が提供している指紋認証ダイアログを呼び出し、指紋認証を行うプログラム作成方法について説明します。

■OmniPass 認証サンプルプログラム概要

製品付属 CD-ROM の「SDK¥OPSDK_x32」「SDK¥OPSDK_x64」フォルダに、アプリケーションプログラムから OmniPass が提供する指紋認証ダイアログを呼び出してユーザ認証を行うサンプルプログラムが格納されています。

(「OPSDK_x32」は 32bit 用、「OPSDK_x64」は 64bit 用となります。)

サンプルプログラム OPValidate.exe を呼び出すと下記のダイアログが表示されます。Main Title 欄に OmniPass 認証ダイアログに表示したい文字列を入力し、User Name 欄に認証を行うユーザ名をセットします。「認証開始」ボタンをクリックすると、OmniPass 認証ダイアログが表示されます。OmniPass 認証ダイアログで指紋認証を行うと、認証結果が Result 欄に表示されます。



■API 呼び出し方法

アプリケーションから OmniPass の指紋認証機能を呼び出すための準備として、

(1) OmniPass をインストールします。

ダイナミックリンクライブラリ OP3INTC.DLL は、OmniPass をインストールすると自動的にコピーされます。

(32bit 版 OS では [CD]¥SDK¥OPSDK_x32¥Lib¥OP3INTC.DLL を、C¥Program Files¥Softex¥OmniPass 内へコピーしてください。)

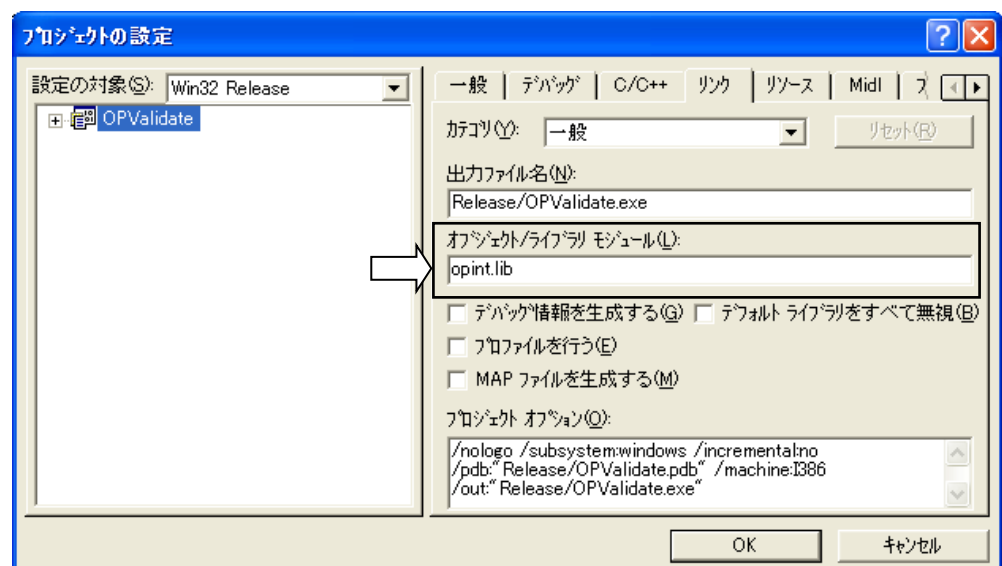
(2) OPINT.LIB ライブラリモジュールをアプリケーションのプロジェクトに追加

スタティックライブラリ OPINT.LIB は製品添付 CD-ROM の「SDK¥Lib」フォルダに格納されています。OPINT.LIB をアプリケーションのプロジェクトにコピーし、プロジェクトの設定より「リンク」ページを開いて、「オブジェクト/ライブラリモジュール(L)」に追加します。

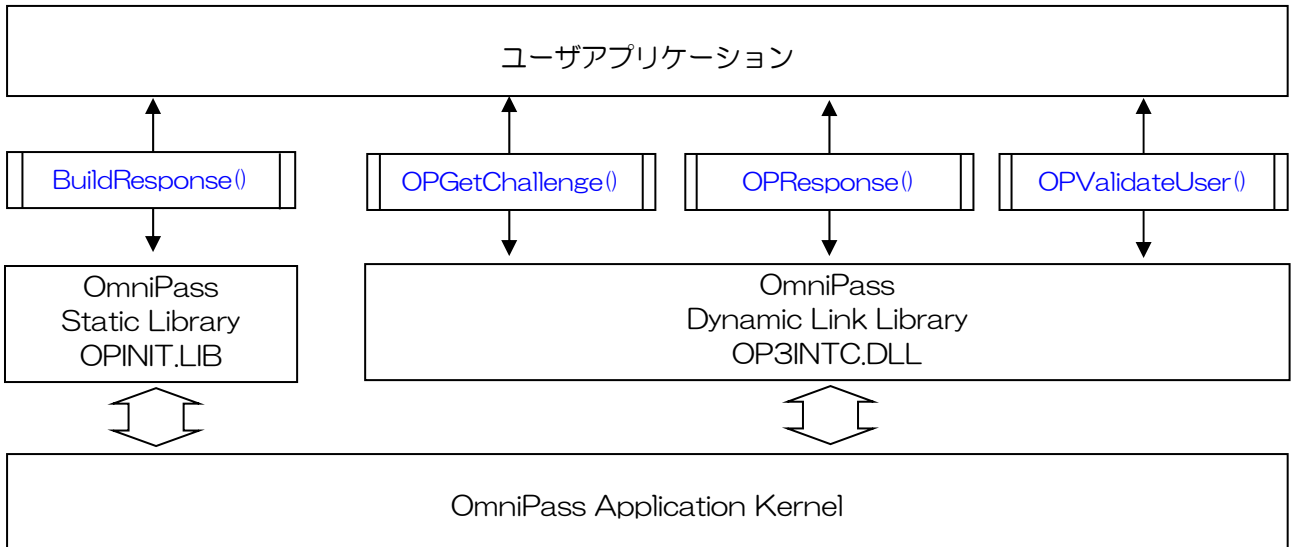
(3) 製品添付 CD-ROM の「SDK¥Include」フォルダに格納されている「OmniPass.h」をアプリケーションのプロジェクトにコピーし、アプリケーションにインクルードします。

(4) アプリケーションの初期化部分で OP3INTC.DLL が提供する OPGetChallenge()、OPResponse()と OPValidateUser()ファンクションのアドレスを取得します。

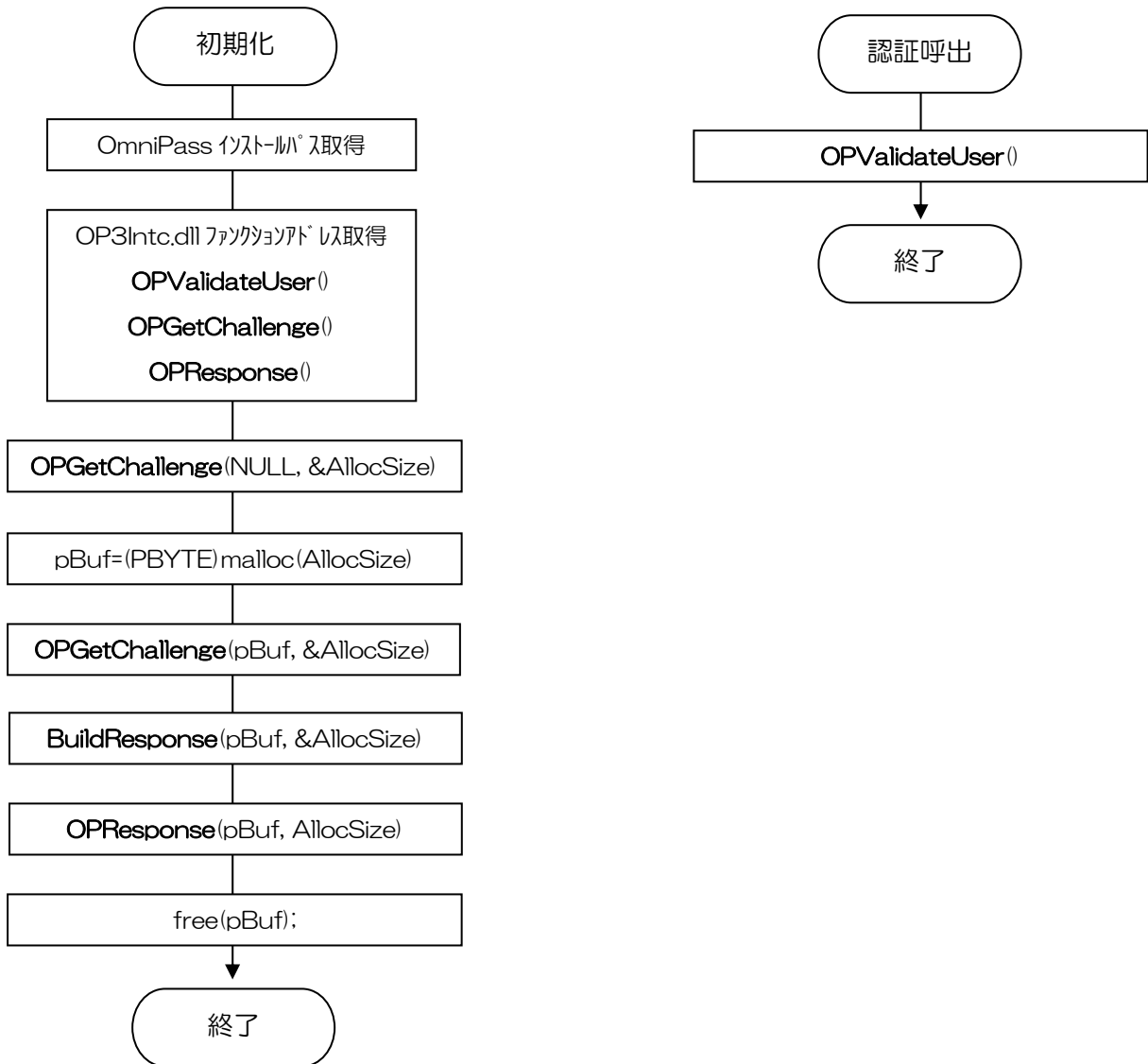
以上で、アプリケーションから各 API を呼び出すための準備は完了です。OPValidateUser()の呼び出しを行うまでのプログラミングフローを次ページに示します。エラー処理等の詳細に関しては、添付のサンプルソースコード「OPValidate」を参照してください。



■OmniPass インターフェイスアーキテクチャ



■プログラミングフロー



■API インターフェイス仕様

OPValidateUser	OmniPass 認証ダイアログ表示
----------------	--------------------

DWORD OPValidateUser (
 PCHAR UserName, 認証ユーザ名
 PCHAR authTitle, 認証ダイアログに表示するメインタイトル
 PCHAR authSubTitle —
)

引数

UserName OmniPass 認証を行うユーザ名が格納されているバッファのアドレスを指定します。ASCII 文字列の終端は NULL ターミネートとしてください。

authTitle OmniPass 認証ダイアログのメインタイトルに表示する文字列が格納されているバッファのアドレスを指定します。

authSubTitle 必ず、NULL を指定してください。

戻り値 この関数は下記の DWORD 値を返します。

OP_RET_USER_VALIDATION_SUCCESSFUL (0)	ユーザが正常に認証されました。
OP_RET_VALIDATE_CALLINGAPP_FAILED (1)	呼び出しアプリケーションが認証されていません。 OPGetChallenge()/OPResponse() でエラーがないか確認してください。
OP_RET_NOT_INSTALLED (2)	OmniPass がインストールされていません。
OP_RET_INSTALLATION_CORRUPT (3)	OmniPass が正しくインストールされていません。
OP_RET_USER_NOT_ENROLLED (4)	指定されたユーザは OmniPass に登録されていません。
OP_RET_USER_VALIDATION_FAILED (5)	ユーザ認証に失敗しました。
OP_RET_GENERIC_ERROR (6)	その他のエラーが発生しました。

解説

OmniPass は指定されたユーザの認証を行います。ユーザ名格納バッファが NULL の場合は、現在 Windows にログオンしているユーザの認証を行います。

ユーザ名をセットする場合は、下記のフォーマットで認証を行うユーザの名前を指定してください。

ローカルユーザの場合：“. ¥ユーザ名”

ドメインユーザの場合：“ドメイン名 ¥ユーザ名”

```

ULONG OPGetChallenge (
    PBYTE pBuffer,
    PULONG pLength
)
    
```

引数

pBuffer		アプリケーションでアロケーションしたバッファへのポインタをセットします。NULL 以外の値がセットされた場合は、格納されるデータの場所を示します。
pLength		ULONG データへのポインタをセットします。pBuffer に NULL がセットされている場合は、このパラメータは無視されます。pBuffer に有効な値がセットされている場合は、pBuffer が示すバッファのサイズをセットしてください。関数が正常に終了した場合は、pBuffer に返されたデータのサイズがセットされます。

戻り値 この関数は下記の ULONG 値を返します。

ERROR_NONE	(0x0000)	正常終了したことを示します。
ERROR_INTERNAL	(0x00F1)	OmniPass で内部エラーが発生したことを示します。
ERROR_INVALID_PARAM	(0x00F2)	無効なパラメータがセットされたことを示します。
ERROR_INVALID_SIZE	(0x00F3)	指定のパラメータが無効であるか、必要となるサイズを満足していないことを示します。

解説

この関数は OmniPass の認証関数 OPValidateUser () を使用する前に、手順に従って 2 回呼び出す必要があります (API 呼び出しフロー図を参照してください)。初回の呼び出しでは、pBuffer に NULL をセットして呼び出しを行い、pLength に返される必要バッファのサイズを取得します。その後、pLength で指定された大きさのバッファを確保し、pBuffer に確保したバッファへのポインタ、pLength には確保したバッファサイズをセットし、再度この関数を呼び出します。関数が正常に終了した場合は、このバッファに BuildResponse () に引き渡すデータがセットされます。

```

ULONG OPResponse (
    PBYTE pBuffer,
    PULONG pLength
)
    
```

引数

pBuffer アプリケーションでアロケーションしたバッファへのポインタをセットします。このバッファには BuildResponse () で返されたデータが格納されている必要があります。

pLength pBuffer に格納された有効データのサイズをセットします。

戻り値

この関数は下記の ULONG 値を返します。

ERROR_NONE	(0x0000)	正常終了したことを示します。
ERROR_INTERNAL	(0x00F1)	OmniPass で内部エラーが発生したことを示します。
ERROR_INVALID_PARAM	(0x00F2)	無効なパラメータがセットされたことを示します。
ERROR_INVALID_SIZE	(0x00F3)	指定のパラメータが無効であるか、必要となるサイズを満足していないことを示します。

解説

この関数は OmniPass 認証関数 OPValidateUser () の初期化処理として使用します。この関数の戻り値が ERROR_NONE の場合は、OPValidateUser () の呼び出しの準備が整ったことを意味します。ERROR_NONE 以外の場合は、OPValidateUser () を呼び出すことはできません。


```

ULONG BuildResponse (
    PBYTE pBuffer,
    PULONG pLength
)

```

引数

pBuffer アプリケーションでアロケーションしたバッファへのポインタをセットします。このバッファには OPGetChallenge () で返されたデータが格納されている必要があります。

pLength pBuffer に格納された有効データのサイズをセットします。OPGetChallenge () で返されたデータ長をセットしてください。

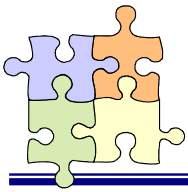
戻り値

この関数は下記の ULONG 値を返します。

ERROR_NONE	(0x0000)	正常終了したことを示します。
ERROR_INTERNAL	(0x00F1)	OmniPass で内部エラーが発生したことを示します。
ERROR_INVALID_PARAM	(0x00F2)	無効なパラメータがセットされたことを示します。
ERROR_INVALID_SIZE	(0x00F3)	指定のパラメータが無効であるか、必要となるサイズを満足していないことを示します。

解説

この関数は OmniPass 認証関数 OPValidateUser () の初期化処理として使用します。この関数の戻り値が ERROR_NONE の場合は、レスポンスバッファ pBuffer が正常にビルドされたことを意味します。このバッファは、OPResponse () に引き渡してください。



指紋センサと OmniPass を使用される際に発生する既知の問題と回避方法について説明します。その他のご質問に関しては、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

■OmniPass ログオン画面が表示されない

【現象】

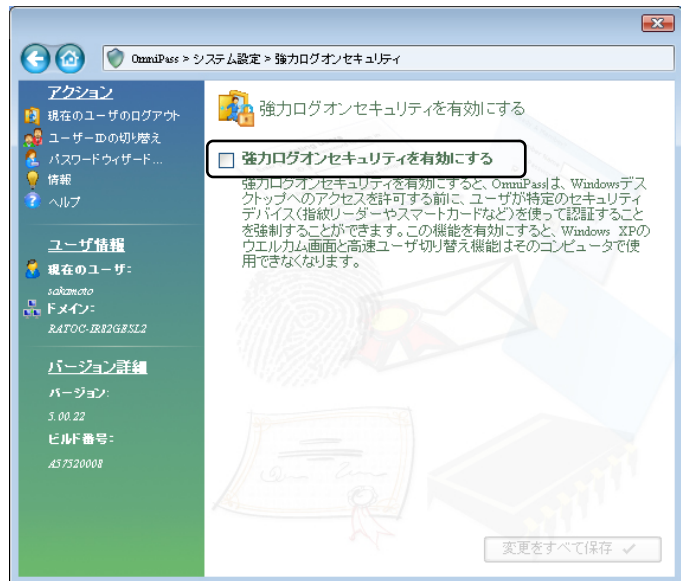
Windows ログオン時に OmniPass 指紋認証によるログオン画面が表示されない。

WindowsXp Home Edition をご利用されている場合に発生する問題です。

【回避方法】

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定」のページを選択し、システム設定の「強力ログオンセキュリティを有効にする」をクリックします。

右の「強力ログオンセキュリティを有効にする」にチェックを入れ、パソコンを再起動します。



■OmniPass ユーザの追加ができない

【現象】

OmniPass に Windows ユーザを追加できない。

【回避方法】

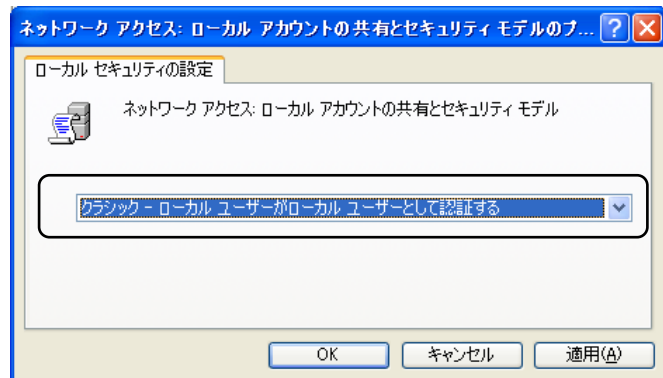
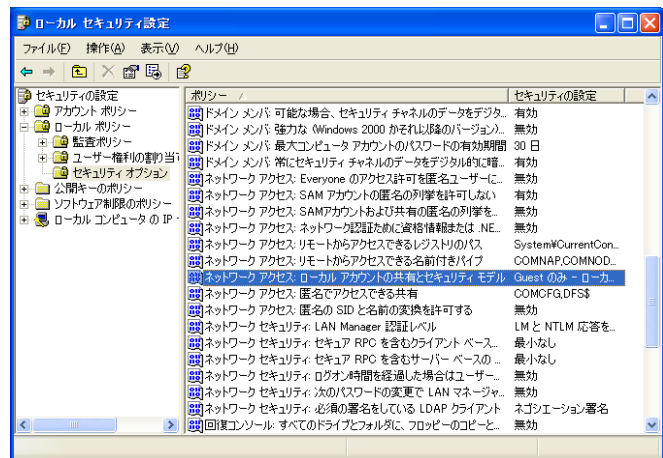
ローカルのセキュリティ設定を調整する必要があります。セキュリティ設定を調整するためには、「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示をクラシックに切り替えます。「管理ツール」を選択し、「ローカルセキュリティポリシー」をクリックします。

ローカルポリシーを展開し、セキュリティオプションを展開し、「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」をダブルクリックします。

右の「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデルのプロパティ」ダイアログより、「クラシック - ローカルユーザがローカルユーザとして認証する」を選択し、「OK」をクリックします。



WindowsXP Home Edition ではローカルのセキュリティ設定を調整することはできません。



■ブランクパスワードのユーザを OmniPass に追加できない

【現象】

ブランクのパスワードを持つユーザを OmniPass に追加できない。

【回避方法】

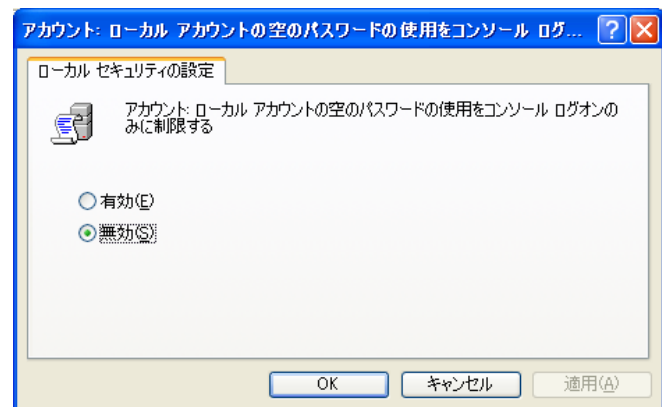
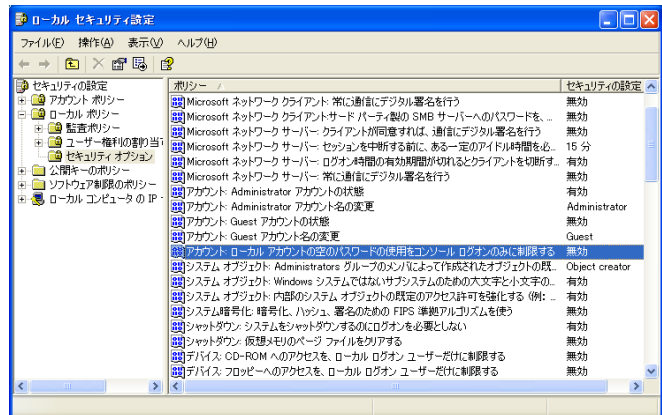
ローカルのセキュリティ設定を調整する必要があります。セキュリティ設定を調整するためには、「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示をクラシックに切り替えます。「管理ツール」を選択し、「ローカルセキュリティポリシー」をクリックします。

ローカルポリシーを展開し、セキュリティオプションを展開し、「アカウント：ローカルアカウントの空のパスワードの使用をコンソールログオンだけに制限する」をダブルクリックします。

「アカウント：ローカルアカウントの空のパスワードの使用をコンソールログオンだけに制限する」プロパティを開き、「無効」にチェックを入れて「OK」をクリックします。



WindowsXP Home Edition ではローカルのセキュリティ設定を調整することはできません。



RATOC SREX-FSU2 質問用紙

●下記ユーザ情報をご記入願います。

法人登録の方のみ	会社名・学校名			
	所属部署			
ご担当者名				
E-Mail				
住所	〒			
TEL		FAX		
製品型番		シリアルNo.		
ご購入情報	販売店名		購入日	

●下記運用環境情報とお問い合わせ内容をご記入願います。

【パソコン/マザーボードのメーカー名と機種名】
【ご利用のOS】
【OmniPassバージョン】
【お問合せ内容】
【添付資料】



個人情報取り扱いについて

ご連絡いただいた氏名、住所、電話番号、メールアドレス、その他の個人情報は、お客様への回答など本件に関わる業務のみに利用し、他の目的では利用致しません。

